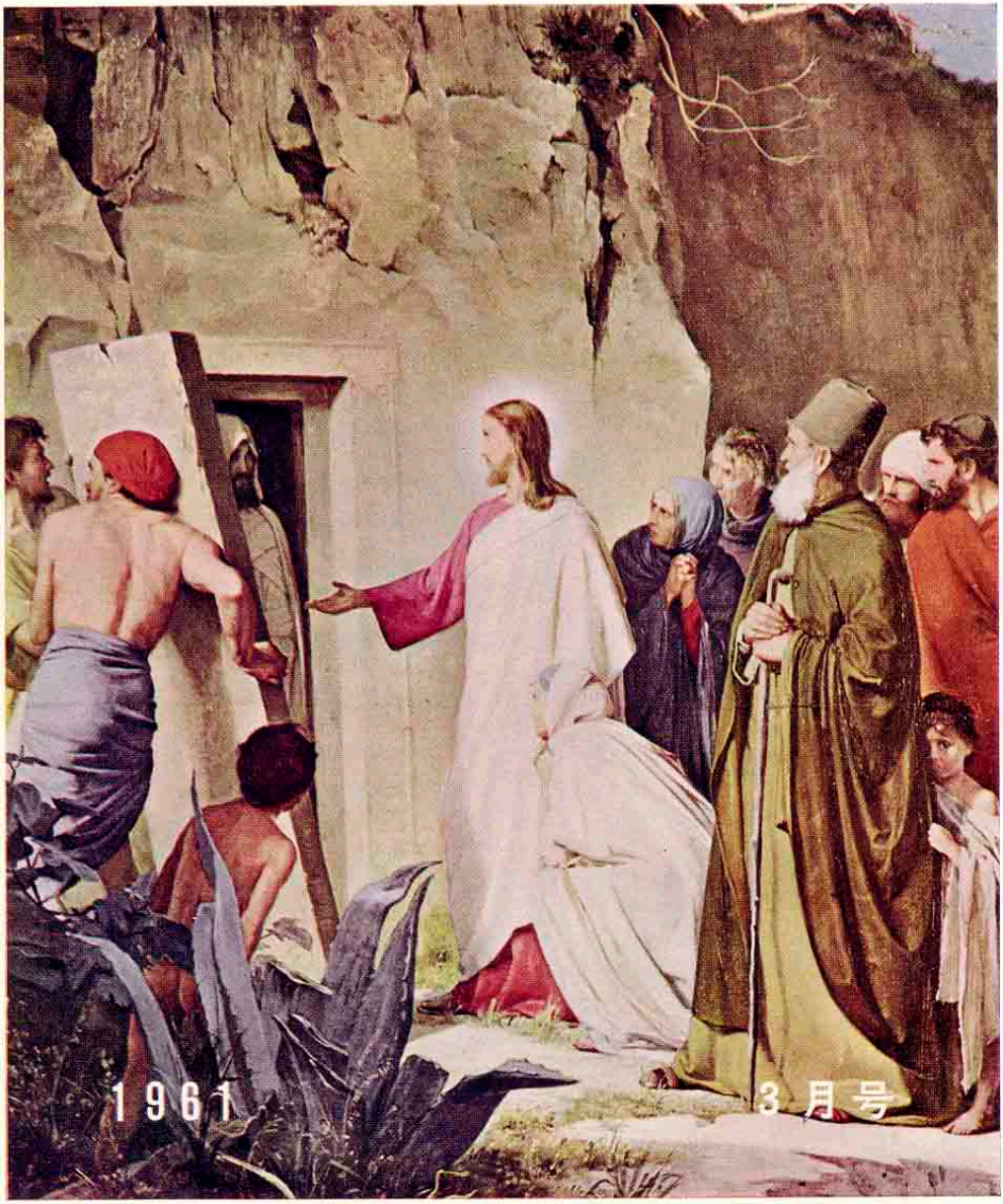
聖徒の道

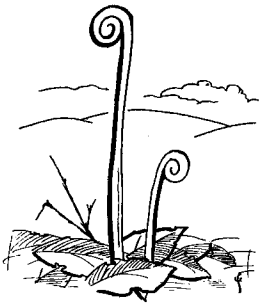
一九五八年三月十七日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）
第五巻 第三号 一九六一年 三月一日発行



末日聖徒イエス・キリスト教会

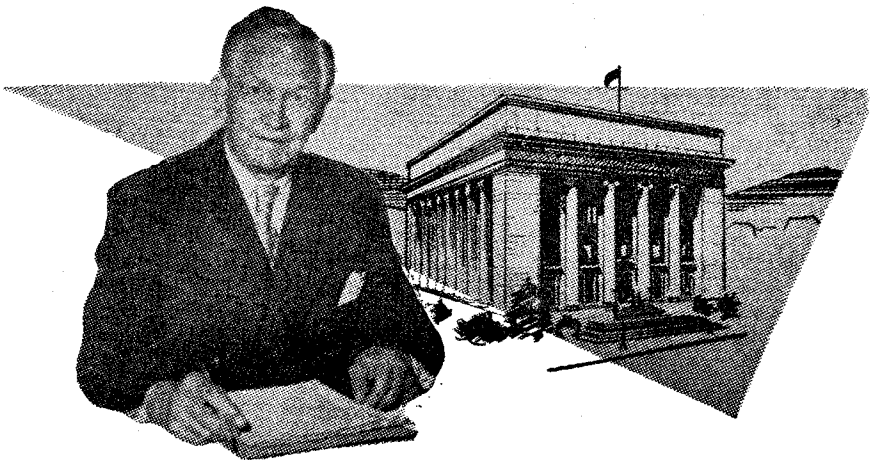
聖徒の道

1961年3月号



もくじ

〔予言者のことば〕
良書を選べ …… テヒド•O•マッケイ…(105)
〔伝道部長メッセージ〕
すぐれた進歩を示した千九百六十年
…… ポール•C•アンドラス…(108)
〔モルモンの教義〕
「昇栄(エキザルテーション)日の栄の
最高に昇ること」…… 佐藤竜猪…(111)
人は努めて善き行に従い …… 鈴木　明…(115)
ともに考えよう
私は信仰生活を尊ぶ …… 安田啄三…(116)
ユタ物語(6)……リーヴァイ•エドガー•ヤング…(118)
特集その1
教会の福祉計画は各方面に拡大する ……(121)
特集その2
教会の躍進に伴う新建築計画 ……(122)
特集その3
増大する刈り入れ ……(124)
光を再び受けた頃(最終回) …… 高木富五郎…(126)
私は奇蹟の証人となった
…… ゴールドン•B•ヒンクレイ…(128)
ヤンガージェネレーション
フーちゃんのたより …… 成田富士夫…(131)
成田富士夫兄弟の先生の証詞 ……(133)
考える葦 ……(133)
私の証詞 ……(134)
あなた自身のために語れ
…… マリオン•D•ハンクス…(137)
僕の夢 …… 八木沼信二…(138)
<大会説教>我が若人たちに注目せよ
…… ソープ•B•アイザックソン…(139)
末日聖徒イエス•キリスト教会歴史粋(15)
…… ジョセフ•フィールディング•スミス…(143)
<系図>先祖への思いを深めよう ……(146)
メルケゼデク神権 ……(148)
アロン神権 …… ハリスン•T•プライス…(150)
日曜学校ガイド ……(151)
伝道本部だより ……(153)
MIAリーダー ……(156)
扶助協会 ……(158)



予言者のことば

良書を選べ

大管長　デビド・O・マッケイ

世の中には良友と悪友とがあるように、一方に偉大な書物や良い雑誌があるかと思うと、他方に下等な書物や悪い雑誌がある。人の性格は主としてその選ぶ友によって造られる。人はその交わる仲間から病気に感染すると同じように、その交わる仲間から美徳も悪徳もうつされる。気高い心の人と交われば、自分の心も気高くなるが、悪友と交わっていると道徳的破産者になってしまう。

友達仲間について言えることは、書物についても言える。人格を向上させ、知恵を増し、世の中の善いもの美しいものの真価を一層悟らせるような書物を選ぶこともできれば、読んだ後で「豚のように泥の中を転がりまわっていた」かのような感を与える役に立たない、下劣な、汚ない本を選ぶこともできる。

良い読書をするということは、第一に良書を選ぶことであり、第二にその書物の中にのっていることをはっきりと知ることである。読書は、貧しい人にも富んだ人にも、つまらぬ人にも偉大な人にも、万人に対して、欲するだけの時間を、古今東西の最も気高い人々と共に過す機会を与える。

どんなに内気で遠慮勝ちであろうと、もしくはどんなにみすぼらしい服装をしていようと、その人はあらゆる時代の最も偉大な指導者や思想家たちに、全

く「くつろいだ」気持ちで対することができる。

千九百二十一年の六月、今は故人であるヒュー・J・カノン長老と一しょに全世界の伝道部を訪問旅行中、私たちは南太平洋のマカハー島で数日間検疫所に留めて置かれた。その当時の日記を繰ると、「人間は座礁することもあるが、人生の海流は彼らにかかわりなく流れる」という言葉が見える。

そこに留められていた或日のこと、私は、大きな骨ばったこぶだらけの木の下にあるこの陰気な検疫所に私と一しょに留められていた長老たちの四人に向って、エドガー・A・ゲストの詩集からいくつかの詩と、シェークスピーヤの劇「御意のまま」の半分を読んで聞かせた。この若い長老たちのうちの一人は「それまでシェークスピーヤを好まなかった」ので、劇の場面を一つ二つ読んでしまってから「いやになってきたかい？」と尋ねたところ、「いえ、どうぞつづけて下さい」と答えた。

そして、食事時間の時に「マッケイ兄弟、あすはおしまいまで読んで下さいませんか」と、一人がほかの者たちを代表して言った。そこで私が「君たちの一人が、シェークスピーヤは好きでないと言っていたようだが」と答えると、あの若い長老が「そうですね、先刻聞かせていただいて始めて好きになったんです」と言った。

個性と人の動きとを頭の中に画くことによって、いつも興味をよび起すことができると言う例はいくつもあるがこれもその一つの例である。

翌日の午後、私はその長老たちに「ハムレット」を読んで聞かせた。

書物を上手に読むということの中にはよく考えるということが含まれている。文章を目で見て居り、時には声をあげて読んでいても、全然何が書いてあるか解っていないことがある。その人の心は全く別の事の上にあるかも知れない。例えて言えば、学生たちは読めと言われた頁の上にその目をさらしているけれども、その心は別の事を考えていることがよくある。書物を読む者の心がこのようにほかの事の上にさまよっているときには、一字一字は目に入っても全体の意味が解ってはいない。書物を上手に読むことは、よく考えることである。それは印刷されている頁全体の意味をよく吸収することである。上手に読むことが知性にとって大切なのは、良い食物が体にとって大切なのと同じである。食物としての思想はよく消化して自分のものにしなくてはならない。

今日、私たちの家庭は、ほとんどあらゆる人間活動の分野に於て挑戦を受けている。悪のいろいろな力は、青年

のみならず両親の信仰も破壊し教会活動も妨げようと一生けん命になっている。

読書の材料は賢明に選ばなくてはならない。人の価値がその友人によってきまるように、ある人の学問が人生に於ける最高最良のものを求める学問であるか、もしくは野卑下劣なものを求める学問であるかは、その人の読むものがこれを示している。「悪い思想伝達機関は良い風俗を汚す」、従って下劣な文学は霊を堕落させる。

滅亡に至る道は多いがその中の最も有効な道の一つは、人の心を惹くけれども罪深い且つ非常に不愉快な挿絵のある不道徳で有害な読み物である。今日いたる所の新聞売場は、末日聖徒の家庭に、いやすべての家庭すべての頭すべての胸の中に入ってはならない雑誌の洪水である。

しかしながら、幸いなことにわが教会には、人生の中の善いものを提供し、且つ教えるところの立派な定期刊行物がいくつもある。全く、末日聖徒の家庭は一軒のこらずこれらの定期刊行物をすべて備えて、日常生活の指針とし導きとして利用すべきである。

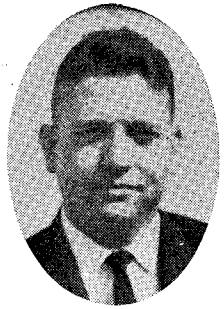
私たちが勉学ということを考えるときには、青年アブラハム・リンカーンのことを頭に浮べる人が多い。リンカーンが若いころに読んだものが、その将来の生活と人格の形成に疑いもなく役立ったことに目をつけると非常に面白い。もちろん、リンカーン自身の言葉からも、彼の天使のような母親の追憶がきわめて大きな影響を及ぼしたことが知られる。リンカーンの母は、彼がわずか九才のとき此世を去ったけれども、彼は後年「私が今日あるのは、または将来を期待しているのは、ことごとく天使のようなわが母の賜物である」と言った。

私たちの母が「私たちの大部分をつくる」にはちがいない。しかし、良友と良書とは母の力を補充するすばらしい助けである。それであるから、私はリンカーン大統領の場合もこれと同じであったと思っている。リンカーンはまだ若いころに良書を選んだ。彼の愛読書の主なものは、聖書、バンヤンの「天路歴程」、イソップの寓話、そのほかシェークスピーヤの劇などであった。彼が始めて読んだ本の一つウィームスの「ワシントン伝」の中から、この背のひょろ長い少年は、粗末な暖炉でちろちろと燃える薪の光を浴びながら、思いきり手足を伸ばして次のような言葉をくり返し読んでは心に銘じたのであった。

「われわれの人目につかぬ行いが気高い行いであるならば、それはわれわれの生涯のうちで最も気高い行いである」。

（一二〇頁に続く）

《伝道部長メッセージ》



すぐれた進歩を示した千九百六十年

ポール・C・アンドラス

北部極東伝道部は千九百六十年中にまたまた非常にすぐれた進歩を致しましたから、この記事でもっぱら伝道部に関する統計を少しお伝えすることにします。

千九百六十年は改宗者獲得の結果に於て伝道部の歴史中、かけ離れて最も成功した年でありました。千九百六十年中には九百二十七名がバプテスマを受けましたが、これは千九百五十九年の六百三十一名よりは四十七%増であり、その前年に高い統計を示した千九百五十八年に於けるバプテスマの七百六十名よりは二十三%増であります。この九百二十七名中、八百十三名は専任宣教師によってバプテスマを受けた改宗者であり、四十八名は非専任宣教師によってバプテスマを受けた改宗者でありました。また三十五名が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員から成るアメリカ軍人の団体の中から出た改宗者であり、三十一名は千九百六十年中にバプテスマを受けた母親の子供たちでありました。千九百六十年中には当伝道部に平均一〇三・四名の専任宣教師が居りましたから、前年に高い統計を示した千九百五十八年に於ける宣教師一名当りの改宗者七・〇名に比して今年は八・二名という宣教師一名当りの改宗者数でありました。韓国に於ては平均十八名の宣教師が総計二百八十九名の改宗者にバプテスマを施しましたから、宣教師一名当りの改宗者数は平均十五・六名であり、沖縄に於ては平均六名の宣教師が総計七十四名の改宗者にバプテスマを施しましたから、宣教師一名当りの改宗者数は平均十二・三名であり、日本に於ては平均七十五名の宣教師が総計四百九十八名の改宗者にバプテスマを施しましたから、宣教師一名当りの改宗者数は平均六・六名でありました。現在(千九百六十一年二月十日)のところ、百二十五名の専任宣教師と四十八名の非専任宣教師が当伝道部に居りますから、千九百六十一年の見通しはこれまでよりも一層良いのであります。

また、当教会が手に入れた土地の面積を見ると、千九百六十年中

には非常にすぐれた進歩がありました。六月には、東京の港区青山北町（表参道）に於てすばらしい土地を購入し、十月には今までの東京北支部の土地に加えて一二〇〇〇平方フィート（三百三十三坪余）を買い足しました。十一月には西ノ宮支部（大阪—神戸地区）のために選り抜きの土地を買い入れ、やはり十一月に福岡市中で非常に良い土地を購入するための契約を結びました。また十二月には日本に於ける当教会の会員が用いるための埋葬地として、東京附近（埼玉県武州長瀬駅附近）に新設された墓園の中で七二〇〇〇平方フィート（二千坪）の土地を買い入れました。そこで、当伝道部の中にある三十二の支部のうち、現在二十五が土地を所有しているわけであります。それにもかかわらず、当伝道部に見られる最も大きな唯一つの必要は、今でも適当な集会所を持つということであります。実際、この必要はこれまでよりも一層切迫しています、というのは会員の数が非常に増してきているのに、当伝道部のどこを見てもまだ一つとして適当な集会所がないからであります。

さて、千九百六十年中の建築基金募金成績はというと、千九百五十九年ほどの成績ではありませんでした。千九百六十年の募金総額は、千九百五十九年の募金総額二六、七二二・五五ドルに比べて一六、七三九・五二ドルでありました。その内容を申しますと、千九百六十年の募金総額の中、一二、八三四・五九ドルは末日聖徒イエス・キリスト教会に属する米国軍人による募金額であり、三、九〇四・九三ドルが各地方部に属する支部の募金額でありました。これを千九百五十九年に比較しますと、千九百五十九年では一八、四九五ドルが米国軍人による募金額で、八、二二七・四二ドルが各支部による募金額でありました。当伝道部が長年待っている、またひときわ必要が切迫している建築計画は、今年その実施が始まると予期されますから、この数年の中にどの支部にも一つの教会堂を建てることができることを期待しております。三十二の教会堂建築費は、一つ一つの支部に於ける土地建物の費用を平均して約一五〇、〇〇〇ドルとすると、内輪に見積っても五、〇〇〇、〇〇〇ドルになります。少くともこの十%すなわち五〇〇、〇〇〇ドルは各支部が募金をしなくてはなりません。従って、今年は建築基金が新しく強調されておりますから、日本人でも韓国人でも沖縄人でも、あるいは米国人でも一人のこらず大巾な寄附をして下さるようにお願いしています。本当に財政上のぎせいが、私たちに割り当てられた金額を調達するすべての人の側に必要であるにちがいありませんから、教会員は一人のこらず神の国の建設に参加するため、この機会を利用せられるように望みます。

唯今、当伝道部の中には五つの地方部と三十二の支部とがあります。その内訳を申しますと、日本に二十五支部、韓国に五支部、沖縄に二支部があります。また当伝道部の中には、末日聖徒イエス・キリスト教会員である米国軍人が組織する四つの地方部と二十七のグループがありますが、その内訳を申しますと、日本に十五グループ、韓国に八グループ、沖縄に四グループがあります。当伝道部の総会員数は千九百六十年中に三千四百六十八名から五千百九十九名に増加しました。この中、四千〇六十七名は日本人と韓国人と沖縄人であり、一方千百三十二名は当教会所属の軍人団体に属しています。実際には、当伝道部内に米軍に属している当教会の会員が約千五百名ありますが、そのうち千百三十二名だけがその会員としての籍を当伝道部へ移しています。当教会所属の軍人団体に入っている

会員を数えないと、千九百六十年の終りには日本に三千〇二十五名韓国に八百二十三名、沖縄に二百十九名の会員がありました。

八百九十六名の改宗者のうち、男の改宗者は四百二十五名、女の改宗者は四百七十一名でありましたから、千九百五十七年以来始めて昨年、すなわち千九百六十年に女の改宗者の方が男の改宗者よりも多かったわけであります。軍人関係を除いた当伝道部の会員四千〇六十七名中、二千百七十八名（五十四％）が女、千八百八十九名（四十六％）が男であります。また日本に於ける三千〇二十五名の会員中、千七百三十三名（五十七％）が女、千二百九十二名（四十三％）が男であります。沖縄でも女の会員の方が男の会員よりも多く七十五名（三十四％）の男に比べて百四十四名（六十六％）が女であります。しかし、韓国ではいつも男の会員の方が女の会員よりも多くて、千九百六十年の終りには五百二十二名（六十三％）の男の会員と三百一名（三十七％）の女の会員がありました。千九百六十年の日本に於ける改宗者は二百七十四名（六十四％）が女で百五十六名（三十六％）が男でありました。また韓国では改宗者の中、百六十六名（五十七％）が男で百二十三名（四十三％）が女でありました。更に沖縄では改宗者の中、五十五名（七十四％）が女で十九名（二十六％）が男でありました。

千九百六十年は一年通じて神権者の数が著しくふえて、年の終りには当伝道部の中に日本、韓国、沖縄を合せて七百五十三名の神権者があり、そのうち長老が百二十五名、祭司が百九十名、教師が百四十一名、執事が二百九十七名でありました。日本には日本人長老百十一名、韓国には韓国人長老十二名、沖縄には沖縄人長老二名がありました。更に日本に日本人の祭司百四十四名、韓国に韓国人の祭司四十二名、沖縄に沖縄人の祭司四名がありました。更に日本に日本人教師百七名、韓国に韓国人教師三十名、沖縄に沖縄人教師四名がありました。また執事は日本に日本人執事二百六名、韓国に韓国人執事七十六名、沖縄に沖縄人執事十五名がありました。

千九百六十年の終りには、日本に日本人神権者五百六十八名、韓国に韓国人神権者百六十名、沖縄に沖縄人神権者二十五名がありました。また千九百六十年中にアロン神権の按手聖任式が二百五十回、メルケゼデク神権の按手聖任式が二十回、合計二百七十回の神権授与式が日本、韓国、沖縄の会員の中で千九百六十年中に執り行われました。この数字を各年別に比較すると千九百五十九年には三百二十九回、千九百五十八年には二百八十六回、千九百五十七年には二百回、千九百五十六年には五十七回、千九百五十五年には二十六回でありました。

千九百六十年には当伝道部に於ける教会員（日本、韓国、沖縄人を含めて）の六十五名が結婚しました。そのうち二十五名が男、四十名が女でありました。千九百六十年に結婚した二十五名の男のうち十七名が教会員と結婚し、八名が非教会員と結婚しました。また四十名の女のうち十七名が教会員と結婚し、二十三名が非教会員と結婚しました。

以上の数字が示すように、千九百六十年は北部極東伝道部の教会にとって非常に良い年でありました。そして千九百六十一年はもっと良い年にさえなるにちがいありません。私は、昨年の成功にあづかって力のあった各会員に心から感謝を捧げたいと思います。そして今年すなわち千九百六十一年の中にもっと大きな進歩のあることを心から信じて待ち望んで居ります。

「昇栄（エキザルテーション）日の栄の最高に昇ること」（二十二）

佐藤龍猪

もし汝らこの世に於てわれを受け入れなば、汝らわれを知りて最高の栄に進むを得ん。すなわちわが在るところに汝らもまた在らん。

「教義と聖約」百三十二〇二十三

一、日の栄の最高に昇る

日の栄の王国、すなわちその光栄が大空に輝やく日輪の光栄に等しく、父なる神が親しく治め給う神の国（「教義と聖約」七十六〇五十—七十、九十二—九十六、コリント前書十五〇三十九—四十二参照）の最高に昇る者は、「すべてのものは皆彼らのものとなる」約束を受ける（「教義と聖約」七十六〇五十九参照）。

父なる神は御子を通して、神の誡命をすべて守る者には「すべてのもの」を与えると約束したもうた。これらの者は知識と智恵と能力を増し、恵みに恵みを加えられてついに完全に至るにちがいない。これらの者は全能の神の光栄と祝福とによって、すべての能力、すべての主権、すべての力を与えられ「創造者」となるにちがいない（「救いの教義」第二巻三十六頁、「教義と聖約」百三十二〇十九・二十参照）。

「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」と（ヨハネ伝八〇三十一—三十二）。天の王国（神の国）の光栄と奥義とは「神の言葉のうちにとどまる」者、すなわち神の誡命をすべて守り、神を礼拝し、神の真理を愛する者に開かれる。これらの者が努めて止まないならば、いよいよ真理の光を浴びて知恵と能力とを増して「高きに昇り」ついに完全な知識を具えるに至る。これはひとえに神の誡命を守って「神の言葉のうちにとどまる」によるのである（「救いの教義」第二巻三十五頁、「教義と聖約」二十三—二十八、九十三〇二十八参照）。

二、神の息子、娘たち

人間（ひと）は霊界に於て「天にまします父なる神と母なる神」から生れた「霊の子ら」である（「人間、その起原と将来」一二九、三四八—三五五頁、「教義と聖約」百三十二〇十九—三十二、「末日聖徒讃美歌」（旧版）第百十九（我が天父）参照）。すなわち人間は「地の基」がすえられた時「みな喜び呼ばわった」「神の子たち」である（ヨブ記三十八〇一—七参照）。しかし、「神の息子、娘たち」（神の子たち）にはもう一つの意味がある。すなわちキリストを信じ、その誡命を守り、真理と義のために努めて止まず、「神の口より出ずるすべての言葉」を履み行う者は「キリストの子と呼ばれ、キリストの息子や娘と呼ばれ」るに至り（モーサヤ書五〇七参照）、またキリストを通して「神より生れたる息子と娘」となる（「教義と聖約」七十六〇二十二—二十四参照）。

福音を受け入れてイエス・キリストの教会

員になる者には「神の子」となる能力が与えられる（「教義と聖約」十一〇三十、三十五〇二、三十九〇一―六、四十五〇八、ヨハネ伝一〇十二参照）。

しかし、教会員となることがすなわち「神の子ら」（神の息子、娘たち）となることではない、教会員になる者には「神の息子、娘たち」という高い位に昇る門戸が開かれるのである。そして変ることのない信仰を以て絶えず進歩発展するならばついに「神の息子、娘たち」すなわち「神の子ら」（ロマ書八〇十四―十八、ガラテヤ書三〇二十六―二十九、四〇一―七）と呼ばれるに至る。

三、神の相続人―キリストと共同の相続人

「神の息子、娘たち」すなわち「神の子ら」は、神の家族であるから「キリストと共同の相続人」（ロマ書八〇十七参照）であって「御父の完き」（「教義と聖約」九十三〇十九・二十）をキリストと共に受ける神の相続人である。

イエス・キリストの教会員となった者は光栄ある神の家族の一員すなわち「神の子」となるために、大神権を受け（「高価なる真珠」モーセの書六〇六十七・六十八）、その天よりの召を全力を尽して遂行し（「教義と聖約」八十四〇三十三）、「新しく且つ永遠の結婚誓約」を結び（「教義と聖約」百三十一〇一―四、百三十二章）、すべての誡命を従順に守り行わなければならない（「救いの教義」第二巻八―九、三十七―四十一、五十九、六十四―六十五頁参照）。

キリストは、霊の子として父なる神の長子であり、「神の独り子」である「神の子」であるから、生れつき父なる神の相続人である。従って、父なる神の有ちたもうすべてのものを相続する権利をもち給う（ヨハネ伝十六〇十五参照）。キリストは生れつきの相続権と服従とによって、めぐみにめぐみを加えられ、ついに父なる神と同じくすべてのものの所有者となり給うた（「教義と聖約」九十三〇五―十七参照）。

福音の要求するところに完く服従し、すべての誡命を履み行う者は、神の家族の戸籍に入れられて神の相続人、キリストと共同の相続人となって（ロマ書八〇十四―十八、ガラテヤ書三〇二十六―二十九、四〇一―七）、父なる神の有ちたもうすべてのものを受つぐ者となる（「教義と聖約」八十四〇三十三―四十一参照）。

神の相続人であり、キリストと共同の相続人である者は、すべてのものの所有者となり（「教義と聖約」五十〇二十七、七十六〇五十九）、神と等しき者とせられ（「教義と聖約」八十八〇一―七）、天地両つながらに於けるあらゆる権能を受け、あらゆる知識と真理とを有つ（「教義と聖約」九十三〇十五―三十）、すなわち彼らは神々となる（「教義と聖約」百三十二〇二十）のである。

四、新しく且つ永遠の誓約

人が「神の子」となり、キリストと共同の相続人となるためには「新しく且つ永遠の誓約」の一つである「新しく且つ永遠の結婚誓約」を神殿の中で結ばなくてはならない。

人が福音を受け入れるとき、それによってその人は神の下し給うた数々の誡命を守り行うことを誓約し、神は神の王国の救いを与えるとその人に誓約したもう。福音は神すなわち「永遠」が制めたもうた道であり、また「永遠に」変らぬ道である故に「永遠の誓約」である。過去のあらゆる時代に於て、救いはその救いを得るための条件を固く守り行うことによって与えられた。而して、この福音が啓

示された各々の時代に於て、それはその「神権時代」の人々にとって「新しく」啓示されたものであった。それ故に福音は「新しく且つ永遠の誓約」である。従って神殿結婚は「新しく且つ永遠の誓約」の一つ、もしくは「新しく且つ永遠の結婚誓約」である（「教義と聖約」百三十一〇二、百三十二〇四）、「新しく且つ永遠の誓約」の中にはあらゆる神権時代にわたって正当な効力を有つバプテスマの如きものがあり（「教義と聖約」二十二章参照）、また割礼のような特別な神権時代に於てだけ特殊な目的のためにあったものもある（創世記十七〇九—十四）、（ブルース・R・マッコンキー長老著「モルモンの教義」一九五八年版、四七九頁参照）。

バプテスマが神の王国に入る門であるように、神殿結婚（新しく且つ永遠の結婚誓約）は日の光栄の中の最高の天界（「教義と聖約」百三十一章参照）に入るための門である。また、救いを得るためにはバプテスマを受けた後も神の誡命を守り、終りまで耐え忍ばなくてはならぬように、神殿結婚をした者も日の光栄の中の最高の天界に入る（昇栄「エキザルテーション」を得る）ためには、ひきつづいて義のために献身をしなくてはならない。

五、「長子の教会」の教会員

前に言った如くバプテスマは教会に入る門である（「信仰箇条の研究」二六三頁）が、神殿結婚は「長子の教会」の教会員となる門戸である。「長子の教会」とはイエス・キリストの教会の中心団体であって、この「長子の教会」の教会員だけが日の光栄の中の最高の天界に入って、父なる神からすべてのものを受けることができる（「教義と聖約」七十六〇五十四・六十七・七十一・九十四・一〇二、七十七〇十一、七十八〇二十一、ヘブル書十二〇二十三参照）。

「長子の教会」の教会員は「神の息子、娘たち」であり、神の家族の戸籍に入れられた「神の相続人」「キリストと共同の相続人」であり、義のために身を献げて「昇栄」（エキザルテーション）を得るのに必要な神殿の儀式と数々の祝福を受けた人々である。

従って、バプテスマを受け教会員であることを確認せられ、神権を受け、教会内の諸々の職に任ぜられ、その他数々の責任を果しただけでは「昇栄」（エキザルテーション）を得て日の光栄に昇ることはできない。日の光栄の最高の天界に昇るためには、「長子の教会」の教会員となるために必要な諸々の律法（おきて）、神殿で執り行われる諸々の儀式、誓約等を守り行わなければならない（「救いの教義」第二巻四十一・四十二頁参照）。

六、「召しと選びとを確かなものにする」

「兄弟たちよ。それだから、ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選びとを、確かなものにしなさい。そうすれば決してあやまちに陥ることはない」（ペテロ後書一〇十）。

「力の限りをつくして信仰に徳を加え、徳に知識を、知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加え」（ペテロ後書一〇四参照）、「神の口から出るあらゆる言葉」を履み行う者は「召しと選びとを確かなものにする」（Make their Calling and Election sure）。これらの者は「ひときは確かなる予言の言」（「教義と聖約」百三十一〇四、ペテロ後書一〇十九参照）を受ける。すなわち、神権の権能を通じて、啓示によりまた予言の「みたま」によって、彼らが「永遠の生命（えいえんのせいめい）」に入ることを「結び固め」られたことを知る（「教義と聖約」百三十一〇四参照）。これらの者は「聖霊を汚

す」罪（マタイ伝十二〇三十一・三十二、マルコ伝三〇二十八―三十、ルカ伝十二〇十）と「またもや神の御子を、自ら十字架につけて、さらしものにする」罪（ヘブル書六〇六参照）のほかは、あらゆる罪に陥らないように「結び固め」られる。主はこれらの者に向って「汝ら第一の復活に出で来るべし……而して汝ら王位、王国、公国その他権能、領土すべての頂上と奥とを受け嗣ぐべし」（「教義と聖約」百三十二〇十九、二十六・二十七）と言いたもう。一例を挙げると、予言者ジョセフ・スミスはこの「結び固め」、すなわち最高の栄に進む証印を受けた人であった（「教義と聖約」百三十二〇四十九参照）。

神殿結婚をして祝福を受けること、「エンダウメント」を受けること、それだけでは必らずしも最高の栄に進んで「永遠の生命」を受ける保証は得られない。ペテロの言の如く「ますます励んで各々の受けた召しと選びとを確実なものにする」ことが絶対に必要である（「救いの教義」第二巻四十六頁参照）。

七、「昇栄」（エキザルテーション）、「永遠の生命」

「救い」という言葉はいろいろの意味に使われるが、真の意味での完全な「救い」は、「昇栄」（エキザルテーション）すなわち日の光栄の中の最高の天界に昇ることであり、「永遠の生命」を得ることである。「こは神の賜のうち最大なるものなり」（「教義と聖約」六〇十三）と言ってあるのは、この完全な「救い」のことである。完全な「救い」には、知識と真理と義と福音の原則とに依って達することができるが、多くの条件がそろって始めて、人にこのような「救い」を得させることができる。すなわちキリストの贖い、福音、神権、「結び固め」の権能がなかったら「救い」はない。また、啓示が続けて与えられること、天使の導きと教え、奇蹟、聖霊の賜がなければ「救い」はない。すなわち、末日聖徒イエス・キリスト教会を措いてほかに完全な「救い」はない（「救いの教義」第一巻参照）。

（二月号「聖餐の律法」つづき）

四、聖餐に与る資格

聖餐式はこのように最も神聖且つ重要な儀式であって、すべての教会員は（病気のために力がない時を除き）この儀式に出席することを要求される。年齢に制限はない。小児たちも聖餐式に出席させるべきである（「救いの教義」第二巻三四九頁参照）。

主は直接御言葉を賜わって「誰にてもこれを飲みまた食う資格なしと汝らの認むる者あらば、その者にこれを飲みまた食うことを許すべからず」と仰せになった（ニーファイ第三書十八〇廿八・廿九）。聖餐を施す義務のある教会の教員たちは、聖餐に与る資格のないことがわかっている者には聖餐に与るのを許してはならぬ責任がある（「信仰箇条の研究」二三四頁参照）。

主はまた、罪咎を犯した者は和解の成り立つまで聖餐に与らせてはならぬと命じて居りたもう（「教義と聖約」四十六〇四参照）。教会員であって或る種の罪を犯し、まだ悔改めていない者は聖餐に与る資格がない。これはまた、背教した者にも適用されるであろう（「救いの教義」第二巻三五〇頁、ジョセフ・フィールディング・スミス長老の言葉参照）。

教会員でない人々は、聖餐の祝禱の中にある誓約に従うことはできないから、聖餐に与る筋合ではない。聖餐式の集りに、教会員でない人が出席している時には「これから教会員に聖餐をわかちます」と言うがよい。教会員でない人が出席していて、しかも聖餐に与っても、それをとめることはしない。この人は誓約の性格が何であるにもかかわらず、善い信仰を持って聖餐をいただいたからである（「救いの教義」第二巻三五〇頁、ジョセフ・フィールディング・スミス長老の言葉参照）。

「主の定め給う場所に立っている」。私は感謝と喜びの中に新しく開店を迎えようとしている店の前に立って心に強く呼び掛ける声をきいています。長い間願っていた主の教会の近くへ仕事の場と住居をあたえられました。三十余年住みなれた地を離れねばならなくなった時数年間磨いた仕事の場を捨てても主の教会の近くへ住みたいと願い、さがし始めてより二ヵ月余色々の経験をへて得た場は小さくささやかであっても主の御力に頼って求め得た店は本当に私にふさわしい場であり主が私に下さった場所であると判ります。

主の戒めの道を歩む時必ず主の導きが有りますから少しの不安もなくこの地に立つことが出来ます。

私が住む場所も決まらぬ十月の第三日曜日に大塚兄弟から地方部扶助協会々長として働く様にと云われた時本当にびっくりしました。こちらに移るについて前から相談に乗って頂いていましたので其の事かしら位に思っていた私にとって、寝耳に水と云う言葉がぴったりする程の驚きでした。瞬間ことわるべきだとの考えが浮びました。私の希望は支部の近くえ来て与えられていた支部扶助協会々長としての責任を一生懸命にして支部扶助協会を盛んにし自らと支部の為に働く事でした自分の事のみでも一杯の私にとってこれ以上大きな責任に働く事は不可能ですし力も無いことが判っていました。でも大塚兄弟から会の組織についてお話をうかがい伝道部長さんも賛成であるとお聞きした時私の心に「教会の指導者の言葉は主の言葉である」との言葉が浮びました。主の決め給うた責任であるなら祈りと努力がある限りなし得る道は開かれているはずです。道をそなえずに主は何事をも私たちにお命じになりません。数分考え、また心に祈った後私はこの召しを受けました。

・・・・人は努めて
善き業に従い・・・・

（東中央地方部扶助協会々長）　鈴木　明

神の命じ給う事をすなをに受け少しでも努力する時いつも神の助けが有り前よりも良い状態に置かれている自分を見出していますから神えの信頼は益々強められていますし、神の御業に働く事こそ人間にとって最も意義有る事喜ぶべき事と信じています。「われ、誠に汝らに告ぐ人は努めて善き業に従い多くの事をその自由意志によりて為し多くの正しき事を為し遂げよそは人自らの中に自由の意志ありて己れの事を自ら為す者なればなり従って人善を為さば決してその報を失わざらん」神の仕事の上にも自分の生活の上にも私は今背延びをしています。高きに向って進むのでなくては何事にも進歩は無いはずですし会員となって今迄私の努力がたりず十分責任をはたし得ぬ時でも主の恵みは何時も私の上に豊かになりました。少しでも努力する時主の恵みはどんなに大きくなる事でしょう。教会に於いて扶助協会の責任は大切ですから兄弟姉妹の援助のもとに会長会の方々と共に働きたいと願っています。私が安定した生活の場を離れてモルモンの移住者の様に主の教会の近くに移り住んだのは教会に入って三年十ヵ月何時も神が生き給い私を導いて下さり此の教会の総てが真に神のもので有るとの心を深めたからです。

【ともに考えよう】

私は信仰生活を尊ぶ

安田琢三
（旭川支部）

戸外では真白な雪が一面に降りしきっていたが、室内ではストーヴが音を立てて燃えていた。二人の宣教師と向いあって私は静かに福音のよきおとずれを聞いていた。四年前の初春、北海道ではまだ冬の最中である。

神の教えは私に耳新しくはないと思われた。何故なら私の短くない学生時代に、日本教育の常として新教的キリスト精神を厭という程詰めこまされていたからである。それはしかし何か漠然としたものであり教養的なものであって、自分には依然としてキリスト教は無縁のもの遠い存在としてしか意味がなかった。

しかし今二人の宣教師から聞く話は何か違っていた。凡ては想像よりもずっと明瞭で、漠然とした点や曖昧な点は何一つなく、一語一語が力強くはっきりとした響きを持っていた。そこには最早ちゅうちょや猶予を許さない決然とした響きがあった。救われるか否かそしてその為に改宗するか否かと。

バプテスマを受けてからよく人に改宗の動機を訊かれる。そして私が特別な動機などないと答えると、きまって怪げんな又疑わしそうな顔つきをする。人は私が「信仰生活」という特殊な状態に入らざるを得なかった止むを得ざる事情というのを語るのを期待しているのだ。病気生活苦その他もろもろの原因から来る人生への絶望など、多くの人は私がそれに類した事を語れば安心するだろう。何故なら彼らは、自分にはそういった絶望的な悩みなどない、だから信仰生活に入る理由もないと、自分で自分を納得させようとかかっているからだ。しかし私はそういう人々に云わなければならない。自分には入信の特別な事情はなかった。しかし全然原因がなかった訳ではないと。しかしその原因とは上述の個人的な動機とは異う。悩みという言葉で表わすなら汎人間的な人間共通の悩みだ。誰でもが必ず悩まなければならない悩み、人間として人間であるべき為の普遍的な悩みだ。この悩みを事細かく述べる必要はないと思う。誰でもが知っている事だ。幼児でさえも。むしろ幼児の眼で見た方が事態はもっとはっきりする

だろう。もし知らないと云う人があれば、その人は表面に惑わされて本質を知らない無智な人か、知っていて知らぬふりをする偽善者かその何れかであろう。

この偽善こそ凡ての悪の根源である。そして悪を許容し傍観する事もこの偽善の中に含まれよう。上述の信仰生活は自分に無関係だ自分は入会しなくてもよいという考えも自らを偽る卑怯な考え方だ。人は凡て進退を決しなければならない。信仰を持つか否か悪魔に加担するか否かを。例外は全然ない。又信仰生活などという特殊な生活も実はあり得ない筈だ。日々の生活の中に信仰が溶け込む事が肝要だ。日曜だけの信仰生活、教会内だけの会員などナンセンス以外の何者でもない。

社会に於て我々は何と多くの偽善に直面する事か。これは或場合学校や教会に於ても見られる。我々はこれらの虚飾を取り去る為にも自らを正しく表現する様努めなければならないだろう。凡てはそこから始まる。真の信仰も亦そこから始まらねばならない。

しかし信仰位容易な様で難かしいものはないのではないか。私は未だに自分が真の信仰を持っているのかどうか悩まざるを得ないのを残念に思う。絶えざる悩みと疑問の反復、これが現在の自分の姿でもある。しかし私は自分の中に徐々に形成されて行くあるものを感ずる。それは単なる橋頭堡に過ぎないが、漸次より大きな堤となって築かれ、遂に誘惑の波を完全にせき止める防波堤にまで成長するかも知れない。合理性と神の偉大な力の確認、この二つが結合されたものが信仰と云えないだろうか。完成の為の絶えざる努力、そしてその為の原動力となる組織された智恵、これが我々にとって必要なのではなかろうかそしてその為にも自らを欺かない事が神に忠実である第一歩であろう。

だが或人は信仰について異論があるかも知れない。私の如きものは最早信仰ではないと云うかも知れない。では信仰とは何であろうかと反問したい。盲目的信仰は信仰とは云えないのではないか。それは単なるムードであり幻影である場合が多い。

教会は社会の醜悪さに絶望した人々、又はそこから脱却して超然たらんとする人々、或は人生の敗残者等そういった人達の溜り場であってはならない。私達は好むと好まざるとに拘らず現在の社会から脱け出る事は出来ないし、脱け出そうとする事は神の計画にも反し罪悪とも云える。私達は現世の中で強く而も清く正しく生き抜かなければならない。多くの障害はあろうが神はそれらに直面してそれを克服する事を勧め給うたのである。そこに、そしてそこだけに我々の進歩と向上があるのである。だから我々は修道院とか僧院とかいう特殊の作られた世界を拒絶する。それは現世というものを設けられた神の御意向に反するのである。

我々は学べば学ぶ程一層自分の無力を悟り神の偉大さを知る様になる。そしていよいよ神の計画即ち福音の完全さを痛感する。我々は常に安心してこの計画に従う事が出来るのである。

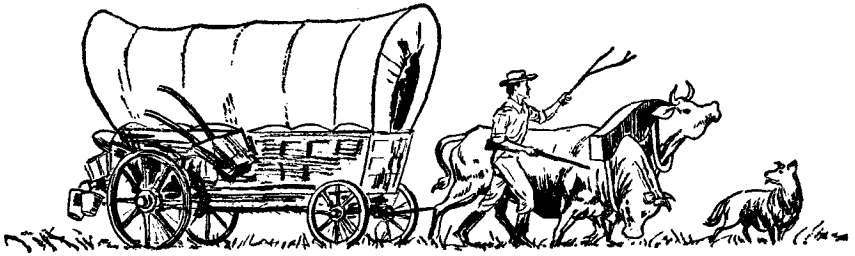
神への感謝と一口に云うが、なかなか実感は伴わない様だ。しかし神の恵みは空気や水や太陽の光の様に、いつもは気付かれないが絶えず我々を暖かく抱擁してくれる、偉大な大きさと広がりを持っている。我々が見る事も知る事も出来ない多次元の世界は、ずっと遠くにあるのではなくて現に我々の身近にあると云われる様に、神も多くの人達の想像よりもずっと身近にある存在なのだ。我々はそれを知っている。何故ならそれは胎動の様にいつも我々の霊と肉とを揺さぶり続けているからだ。凡て主イエス・キリストの御名を通して。

＜求道者のためのよみもの＞

ユタ物語

（6）

リーヴアイ・エドガー・ヤング
（七十人会最高評議員会々長）



○鉄道敷設前の発展

鉄道の敷かれる前のユタの経済的又知的発展は非常なものであった。そしてあらゆる方面に関心が持たれたのであった。前述した通り、一八五六年に、農業、園芸及び家内工業一般の奨励を目的としてデゼレット農工会が組織された。毎年賞品が授与され、それが好結果をもたらした。一八六〇年に領地の最南端の農民たちがソルトレーク市の定期市（共進会）に出品しようとしてその生産物を出荷した。脱穀機や草刈機や刈入機などの農工機械が広原を越えて搬入され農民に売られ又五十年代の初期にリーヴインストンやキンケードが熊手やシャベルや鍬などの農具や金物を持ち運んで来た。

ユタの商人たちは富める者となり東部の最上の品物を貯蔵した。この殖民地の産業の発展は実に目ざましく一八六八年の七月四日には、毛織物製造業者、綿織物製造業者、製靴業者、幌車及荷車製造業者、農業園芸協会、石屋、キャビネット製造業者、機械工、鍛冶屋、錫工、鉄板工、製紙業者、製本業者、オルガン製造業者、製錬業者及び鉱山業者たちの祝賀行進が行われた。すべての重要産業部

門が代表され、新領地が自主以上のものであることを示した。

一八六二年に大陸電信が貫通しユタは外界との通信が出来るようになった。この領地からブリガム・ヤングによって最初に送られたメッセージは、大平洋電信会社の社長J・H・ウエイド氏宛のものであり、次のような文面であった。

"ユタはまだ分離していないけれども、我が不幸な故国の憲法及び法律を堅持する"

○鉄道の敷設

一八五〇年度から五一年度にかけユタの通常議会で国会に対しミズーリ河から大平洋岸への鉄道敷設が要請された。入殖者たちは鉄道の必要を痛感し、ユタの市や町が東部及び西部の中心地と汽車によって連絡されることを望んだ。国会は一八六一年にこれを実行に移し、その八年後にユニオン・パシフィックとセントラル・パシフィックの両鉄道がユタのプロモントリに於て、U・S・グラント、カリフオルニヤのリランド・スタンフォード、ブリガム・ヤングその他著名な人々の列席の下に連結したのである。これは全西部にとって劃期的な出来事であり、新しき入殖者団体に重大な意義をもたらしたのである。ユタの人民は領地内の僻地に支線を敷くことに全力を尽したが、これらの支線の多くが商業上の重要な幹線に成長したのである。

○鉱山の開発

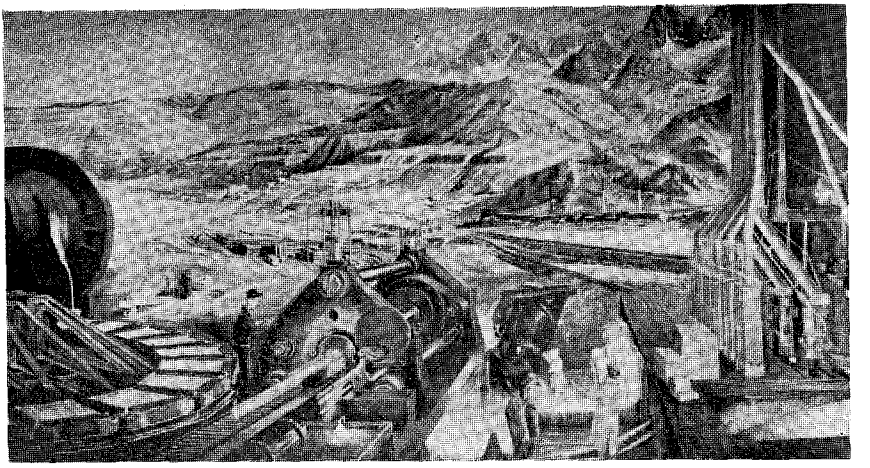
鉱業は今日、ユタに於いて収益のあがる事業として主要産業となっている。一九一二年度の合衆国地誌一覧の報告によるとユタは、金、銀、鉛、銅を四千四百万弗以上生産している。ソルトレーク市から約三十哩離れたビンガムのユタ鉱山は世界最大である。一万人の従業員がこの鉱山で生活している。この操業はパナマ運河のそれに比較されている。何となれば全山が文字通り堀られてしまったからである。

早くも一八六〇年にユタの町々はボイス及びその他のアイダホの鉱業中心地と密接な連絡をとり一八六三年にボイス鉱山から東部諸州へ向けての貨物列車がソルトレーク市を通過したのである。人々は山々は金に充ち、鉱業者たちは幸運をつかむと告げた。これが前途有望な世紀の門出に効を奏し、世界でも屈指の豊富な幾つかの鉱山の発見をもたらしたのである。

ユタ鉱山の大規模な開発は一八六二年に開始された。ユタ、ダグラス要塞の司令官、P・D・コーナー将軍はビンガムに方鉛鉱と銅の豊富な鉱脈を発見したのである。その結果数千の人々がユタに行き、わずかな期間に、ビンガム鉱業は繁栄し、"一夜の内に"起った町となった。そして数哩はなれた谷間に鉱石を粉砕する為の製錬所が建てられた。一八七七年にパーク市が世界でも最大なる銀及び鉛生産地帯の一つとして登場したのである。この地帯のオンタリオ鉱山は最大なる鉛及び銀鉱業所で数千の従業員が働らいている。鉱業所は州の他の地方にも発展し、鉱石処理の為に大きな製錬所が処々に建てられた。ユタには大きな炭坑及び鉄鉱所も発展し、合衆国に於ては石炭及び鉄が経済発展の大きな天然資源となっているのである。

○州となったユタ

ユタは一八九六年に合衆国に編入された。当時の人口は三十万足らずであったが自主独立した繁栄せる自治区でその生産物を東部諸州やヨーロッパに送っていた。今日に於てその人口はやっと東部の大都市なみとなった。西部の山中と荒原に位置している為に数の上



（教会の著名な画家の手による山ビ鉱の絵ンガム）

ではカリフォルニヤ、オレゴン及びワシントンのように成長してはいない。一年の降雨量平均は約十二吋であるが広大な農場や美しい各家庭の庭園は荒野の面影を無くしてしまっているのである。今日ここには数百万エーカーの土地を形成する二千以上の農場があるのである。主要生産物は、馬鈴薯、麦、砂糖、大根、及びムラサキウマゴヤシ（牧草）などで牧畜、牧羊なども極めて盛んである。大きな運河や貯水池を建設する必要があった。早期に於ては共同作業でこれが行われた。今日に於てはこれが資本によって実施されている。過去二年間に於て四百万弗以上が灌漑事業に費されている。そして毎年平均百万弗の金が山間よりの水を保存する為に使用されているのである。乾農法は人々の主な研究作法で百万エーカー以上の荒地が美しい麦畑に変貌しているのである。

☆　☆　☆　☆　☆

（「予言者のことば」一〇七頁より）

「彼の父は『息子や、わしはどの言葉にも信頼のおけるほど正直で清い生活をしている男に逢うためには、五十マイルでも馬に乗って行くだろうよ』と語ったと言われる」。

ジョージ・ワシントンの偉大な点の大部分は、このように過した時間のうちにアブラハム・リンカーンの性格の中にしみ込んだ。

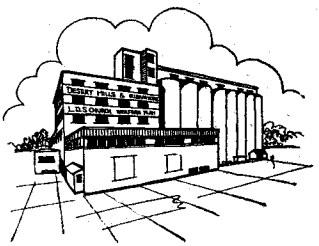
読書は現代生活の大きな部分であって、その影響は遠くまで及ぶから正しい読書の習慣をつけることをはげますためにすることは、何であってもそれは世人にとってまた教会員にとって必らず役立つにちがいない。

聖典の中から、教会の発行している本や雑誌の中から、または各家庭で催おす貴い家族の夕べにひもとく世界の古典から、声高く読む機会を逸してはならない。それは、一しょになることと永遠の幸福を得るという大きな余慶をもたらすにちがいない。

進歩・発展する教会

特集

（その1）教会の



福祉計画は各方面に拡大する

一九六〇年度の教会福祉計画の統計が出来上がるとき、その活動が各方面に増大したことが反映されるであろう。

これは福祉計画管理指示者ヘンリー・D・ティラーの予告である。彼は統計が実質的に福祉計画への現金献納、労務献納、福祉雇傭福祉受領の為の保証作業の増加を示すことを期待すると言った。

ティラー長老の言によると福祉計画は一九六〇年に現存農場の拡張と其他の購入に大体の支出がなされた。本年度の福祉物品配布の増加十パーセントであると彼は言った。この増加は教会の全面的な躍進とわずかな一部の後退に原因していると福祉部の係は言っている。彼等は一九六〇年度の発展を次の如き教会福祉計画の成長躍進にありと指摘している。

—ケイスヴィルに於ける新しい製粉所及び穀物倉庫の増設。

—アイダホ、フォールの東部アイダホ地区に新しく倉庫の建設。

—ワシントン・D・Cステーキ部によるマリランドに於ける新酪農場の買付。

—ソルトレーク市に於けるデゼレット産業の二六七名迄の雇傭引上げ。

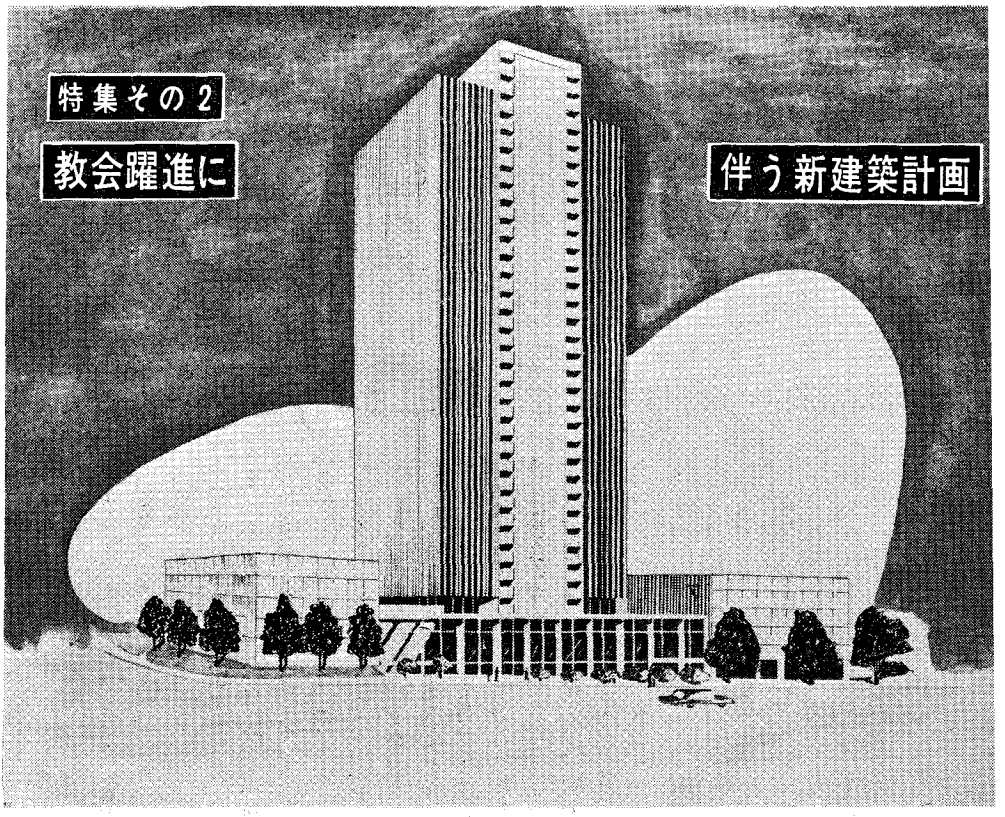
—ウエルフエア・スクエア（福祉地区）に於ける新ミルク・プラントの建設。

一九六〇年間に於けるウエルフエア・スクエアの訪問者は引続き増加している。

一九六〇年度は又福祉計画の転換期であった。又教会福祉本部移転の年であり現在、神殿東南一一五番に位置している。戸傭事務所はリチャヅ街三五番に移転した。全教会福祉ハンド・ブックは一九六〇年に再出版された。

全教会福祉委員会長のマリオン・G・ロムニー長老は計画について次の通り言った。

"福祉計画が始められて二十五年になろうとしている今日、教会内の殆どすべての者に福祉計画が教会にとって不可欠のものであることが認められて来たことは嬉しい。現在教会内のすべての人が主の貧者を世話する熱意ある積極的な計画がない限り如何なる機関も、キリストの教会と主張することは出来ない。イエス自身、彼の一人の兄弟を世話することは真に彼に従う者であるか否かのテストであると述べている。彼は彼らになすことは彼になすことであると言った。



教会本部

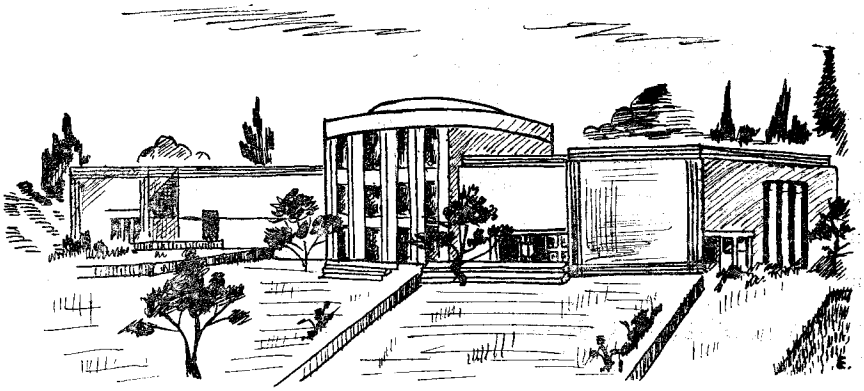
教会の躍進に伴って、ぼう大な建築計画が大管長会によって発表された。

今なお教会建物委員会の建築部が計画の完成を急いでいるので、既に計画された数件の建物の何れでも来年の或時期迄起工されないであろう。

大管長会は計画の建築は数年間に及び、更に将来の拡張に備えるのであると説明している。計画の首位は北神殿街の三十八階の事務所である。扶助協会の建物がその西翼となり東側は州街道である。この巨大な建物を建てる為に現在その場所に建っている系図会館とシエリル・アパートメントは取壊される。この高層建築物には教会宣教師学校、建物事務所、管理事務所及びその他の教会の補助機関が置かれる。

地下約九万一千平方呎の大きくもっと機能的な附帯施設が現在のそれに置き代えられる。新しい十一階の官文庫の建物は本道と北神殿街が扶助協会からの街道と交叉した北東角に位置するであろう。

デゼレット体育館及びLDS実業単科大学は移転建築されるがその場所はまだ発表されていない。現在のLDS実業単科大学は新しい管理部建築に場所を開ける為に取壊される。体育館と旧管理監督会とブリガム・ヤング会館はユタホテルが現在の建物の後部の西北角に新しい十七階の附設



情　報　局

建築をし三百部屋を追加する為に取壊される。

新しく計画された教会の本部地区の中央、テンプル・スクエアの真東は池を備えた広場となる。その反射する水面は美しいソルトレイク神殿の鏡となる。

新しい管理部建築物は本道と州道から入れる二千台の車を駐車出来る地下駐車場を誇る。現在の宣教師学校の五棟の建物も又教会本部地区の為に取壊される。この地区に残される建物は、ビーハイヴ・ハウス、ライオン・ハウス、現在の教会事務所、ユタホテル及び扶助協会の建物である。

三十八階の本部建築物は五百呎の頂上に設置される展望台を含む。この建物は二十のエレベーターを必要とするであろう。これは現在の教会事務所を継続して使用する教会幹部の事務所とはならない。

同様に新しい情報局がテンプル・スクエアのタバナクルの北に設立されることが前以て発表された。

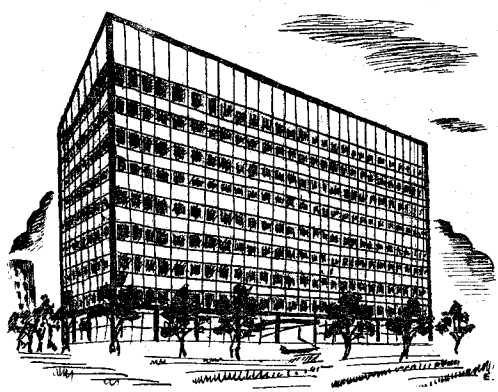
写真説明　右上より左下へ

一、三十八階の本部と二千台の車を駐車出来る地下駐車場。

二、新宮文庫の建物は新しい管理部建築物を補足するであろう。

三、三十二階の教会管理事務所は地下四階の駐車場を以て誇るであろう。

四、タベナックルの北に建てられる新情報局はテムプル・スクエアに威厳を加えるであろう。

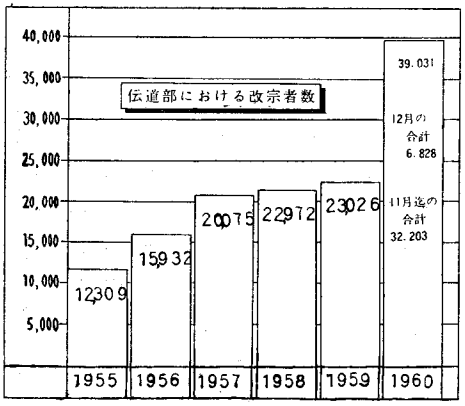


教会管理事務所

特集その3

増大する刈り入れ・・・

見よ畑は早白くして刈り入れを待つが故なり



宣教師活動は一九六〇年度のバプテスマを新しいレコードに押上げた

恐らく教会によって認められる一九六〇年間の最も目ざましい増加は広範な宣教師活動によってもたらされた改宗バプテスマの数であろう。

最後的な総計は十二月迄、得られないけれど教会事務所に提出された報告によると、伝道部に於ける改宗者の数は一九六〇年度は一九五九年度に比較して約六十九パーセント増加を示すであろう。

過去二週間チャーチ・ニュースによる六〇の伝道部の調査は、一九六〇年度のこれ等伝道部に於ける改宗バプテスマは前年度の二三、〇二六人に比べて驚異的数、三九、〇〇〇人に達せんとしている。これは実際の報告、十一月迄(十一月を含む)の三二、二〇三人に十二月中の見積り六、八二八人を加えたものでチャーチ・ニュースの為に伝道部長たちによって作成されたものである。

この伝道部の総計に一九六〇年度のステーキ部伝道による改宗バプテスマの見積り、一〇、〇〇〇人を加える時は五〇、〇〇〇近くなり前年度の三三、〇六〇人(前年度迄の最高記銀)を遙かに超えるのである。この驚異的増加を輝かせているのは本年度に於て百パーセント以上を獲得した多くの伝道部である。その多くはヨーロッパ伝道部であるが他の伝道部に於ても異状の収獲を示し、改宗の精神は広く全世界に及んでいるのである。

数日前ドイツ、フランクフルトの本部から届けられたアルヴイン・R・ダイヤー部長の報告によると全ヨーロッパ伝道部の一九六〇年度のバプテスマ総計は一〇、七〇〇人である。これは一九五九年度の二、七〇〇人に比べると殆ど三百パーセントの増加である。教会の全伝道部を通じての最大なる増加パーセンティジはフランス伝道部で一九五九年度の一四四人に比べて本年度(六十年)未迄の見積りは一、〇〇〇人である。この伝道部の最初の目標は四〇〇人であったが七月四日に既にこれを超過したので八〇〇人に変更したらそれも十一月三十日の八三三人を以て超過してしまったのである。オランダは一九五九年の一七六人から本年度の約七五〇人に増加した。北部ドイツ伝道部は一七八人から六〇〇人にスウェーデン伝道部は七二人から約三〇〇人になったのである。

全伝道部を通じてバプテスマの総計の最高記録はブリティッシュ伝道部であろう。この伝道部のバプテスマは十一月末迄二、四七一人で十二月中の見積り四〇〇人を加算すると二、八七一人となる。本年三月に組織された北部ブリティッシュ伝道部は一九六〇年度に約一、七〇〇人のバプテスマを記録するであろう。これによりブリティッシュ島の総計は一九五九年度の一、四〇四人に比べて四、五九一人となる。教会初期に、驚異的記録を持つこの伝道部にとっても一九五九年度の記録は模範的なものであったのである。

一九六〇年度のバプテスマの次点はサモアン伝道部である。一九五九年度の一、一〇一人に比べて二、六九三人以上である。二つの伝道部が第三位を競合っている。十一月末迄のカリフォルニヤ伝道部の一、九三七名と北西部ステート伝道部の一、九〇九人は年度末迄に、二、二〇〇人から二、三〇〇人が期待される。北西ステート伝道部は合衆国に於ける最高であり前年度の八九一名に比べて一九六〇年度は計二、三〇〇人に達するのである其の他の着目すべき増加は中部アメリカ伝道部で一九六〇年度の合計は前年度の二八九人に比べて一、二〇〇人となっている。この驚異的バプテスマによる改宗者の獲得は宣教師の数の多きにのみ原因するのではない。新しい伝道方法改宗精神の強調も伝道の効果を増しているのである。

この躍進している伝道事業を指揮しているのは大管長会の下にある伝道委員会である。ヘンリー・D・モイルが委員会の長であり、ゴルドン・B・ヒンクレイ長老が常任書記である。

三〇〇のステーキ伝道部は九、二一八人のバプテスマを報ず

全教会のステーキ部の宣教師たちは専任宣教師たちに歩調を合せて一九六〇年度の十カ月間、同じ割合をもって進んでいると大管長会へ報告した。

この教会の三一九ステーキ部の三〇〇ステーキ伝道部の報告は六、五二二人の宣教師が九、二一八人の改宗者にバプテスマを執行したことを示している。これに十二月の数が加算されると恐らく一〇、〇〇〇を越えるであろう。ステーキ部宣教師たちは合計一、三一四、八三五時間の改宗時間をかけて改宗者を獲得したのである。大管長会のヘンリー・D・モイル副管長と十二使徒会補助及び伝道部常任書記のゴルドン・B・ヒンクレイ長老はステーキ部宣教師たちの働らきを褒め讃えた。彼等の大部分は日常の仕事を終えて夜に伝道したのである。教会の各ステーキ部間の異なった状態はステーキ伝道部報告に判然たる効果を見せている。

五七人のステーキ部宣教師を以て合計一六八名の改宗者を得てその数に於て最高であるポートランド、ステーキ部（オレゴン）は、その範囲内に五〇〇、〇〇〇の非教会員を擁している。この非会員数はニューヨーク・ステーキ部の一千二百万に比べると極めて少数である。ニューヨーク・ステーキ部では二四人の宣教師が二〇人の改宗者を得ている。

ユタ及びアイダホの或ステーキ部では殆ど百パーセントが教会の会員である。モロナイステーキ部は十一人の非教会員を報じているアイダホの北レクスバーグは三、九七四人の会員を擁しているがわずかに一一五人の非教会員を報じている。けれどもここで五人の宣教師はこの非教会員の内から年間を通じ十四人のバプテスマを執行しているのである。

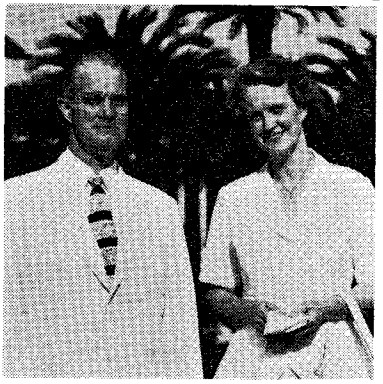
ホエニックス地帯のアリゾナのステーキ部はホエニックス、一五〇人ホエニックス、一二五人及び北ホエニックス、一一四人の三ステーキ部で殆ど一ワード部を形成するほどの改宗者を得たのである。

光を再びうけた頃

＝モルモン教会の日本伝道再開を顧みる＝

（最終回）

高木冨五郎



＜マース伝道部長とマース姉妹＞

七

新伝道部長マース長老の最初の計画は、日本伝道に要する資料文献が乏しいから、正確な飜訳による日本文の文献を出版するということであった。そこで八月二十二日飜訳委員会を組織してその目的達成に邁進することとし次の如く委員が任命された。

△議長　マース伝道部長、△副議長　アンドラス長老、△書記　佐藤（竜）兄弟、△委員　白石兄弟、藤原姉妹、奈良兄弟、児玉姉妹　高木兄弟。

（任務）教義と聖約、高価なる真珠の飜訳出版。随時必要なる日本文パンフレットの出版。聖餐式のパンと水の祝福及び信仰箇条の改訳並にモルモン経の口語文訳。

（会議）佐藤兄弟が鳴海と東京に半月宛在住につき其の東京滞在中は週三回開会すること。

以上の構成により委員会はまず、パンと水の祝福文及び信仰箇条の訳文調整から取りかかった。

そのうちにクリソールド前伝道部長がいよいよ帰国されるというので九月四日（日）午後二時から四時まで伝道本部において送別証し会を開き、次いで翌五日横浜出帆ホノルルへ帰国されたのであった。顧ればクリソールド長老の在任一年半の功績はほんとうに偉大なものがあったが、ひつきようするに、わが教会の真実性が何のたくらみもなく、日本の地に深く根を下したのであって、すべて主の深い思召から出でたものと痛感される。

一方伝道は東京全都へ拡がる様相を示して来つつあったが、十一月六日マース伝道部長に招かれて本部へ行くと、マース部長から日に増し求道者の数が殖えつつある。こうなると雪ケ谷、荻窪、青山の三集会所を支部組織に改め、各々日本人によって管理する方式をとる。よって雪ケ谷は奈良兄弟、荻窪は白石兄弟、青山は高木兄弟をそれぞれ支部長としたい。

との申出であってこれを受諾する仕儀になってしまった。

支部組織となると現在の青山一丁目では地域的に適当でない。私たちはどうしても都北方面を開拓しなければならない。それには池袋を中心とした地域を撰定するのが妥当だというわけで、支部の名儀も正式に「池袋支部」と決定し、その方面に格好な集合所を物色しなければならない。支部担任の宣教師ニッコラス、ツーラー両長老と協力して物色した

結果、江古田駅近くの日大芸術学部の校舎に眼をつけ交渉の結果、来年一月から使用することが出来ることになった。クリスマスの集りだけは青山ですませ、いよいよ来年からは全く未知の所で開拓者のような悲愴な考をもって働かねばならなくなった。

時に池袋支部所属の会員は左の十七名の兄弟姉妹に過ぎなかった。

水子豊、同登美子、相良朝彦、同千代子、望月謙太郎、同謙一、同しづ子、同悦子、同八重子、畑英子、今井一男、木内常雄、木村方子、根岸信子、松本睦子、菅原薫、高木富五郎

八

一九五〇年が池袋支部誕生後最初の本格的活動年度とでも言えるだろうが、元日は日曜だが日曜学校は休んで午後二時から麻布の本部で聖餐式を開いた。次いでアンドラス長老の積極的な指導によって七日午後一時から江古田駅前に「街頭伝道」の立看板を立てて予め往来の人々の注目をそそり、午後六時半から駅頭で大々的な街頭伝道を始めた。野口兄弟、相良姉妹など力のこもった説教には群集に多大の感銘を与えたようで、聴衆の中から色々な質問が出て駅前は時ならぬ混雑をしたようであった。そしてユタの山々やソルトレーク市の風景など映画も喝采を博していた。

翌八日の日曜日は前夜の街頭伝道と、かねて宣教師たちと家庭訪問をした近隣の人達の心をそそったのとを合せて、日大芸術学部の音楽室に開かれた日曜学校は大成功を博した。実際この日集まった人たちの中から、後日教会々員になったものの非常に多かったことを思えば、街頭伝道と家庭とが如何に福音を宣べ伝える上に重要な仕事であるかということを感得させられるのである。

其の後しばしば街頭伝道に家庭訪問に宣教師に協力した結果、日曜学校は益々盛大となり、三月十九日には大人と小供を合して合計二百十八人の会衆が集るまでに発達した。そして二十一日の支部のピクニックは豊島園で催されたが、これまた百数十人も参加する盛況を呈したほどである。近くの力行会講堂でMIAの最初の集りを持ったのも二十三日（木）午後七時からで、これまた予想外の出席者を見たのであった。

四月十六日から日曜学校は武蔵野音楽大学講堂に変更されることになった。日大の方はどうしても継続を承認して呉れないので己むを得ないが、このことあって以来、私が病気静養のため支部長を解任されるまでの四年四カ月の間に、会場獲得の苦難に遭い、更に新大久保の成城学校、目白の洋裁学校、そして渋谷の教会へと転々流浪の伝道に苦しんだものである。尤も支部の名も池袋支部から東京第一支部に、そして現在の東京北支部と変更されたのだし、而かも発足以来満十一年の歳月を経たのだから、表面的の風貌の変遷多いことは知れたことである。

しかし、わがモルモン教会が真の神の教会である限り、かっては伝道方式こそ不馴れで幼稚であったが、福音の大本は永久に不変不動のものであって、神は唯一つ、イエスはキリストで、ともに現に生きてましまし、ジョセフ・スミスは予言者であるということには些の追補修正を要しないのである。それにしても日本伝道が再開されてから十三年間、いまも脈々として響き、讃える、導き恵む素晴らしい声を聞き得るとは何たる幸福でありましょう。日本伝道再開当時を顧みて、唯々感謝の心で一ぱいである。

＝名古屋支部にて＝

私は奇蹟の証人となった

ゴールドン・B・ヒンクレイ
（十二使徒会補助）

東洋の島国を訪問して

もしも望めることなら私はここに坐って、この素晴らしい聖歌隊の歌った美しい讃美歌を再び聞きたいと思います。

〝主イエスの給う愛に驚く
　　其の恵のなどかく深き〟

私は主の霊感を求めました。そして話を準備しました。けれども私は別なことを話し度いと思います。ダイヤ兄弟は、ヨーロッパに於ける伝道に就て語りましたが私はその

地の素晴らしいみわざに感激しました。私はここに福音の説かれている処は、世界中、何処でも、同様のみたまと神の能力が感じられると云うことに就て述べたい。

私は最近大管長会の指示によって東洋の伝道部を廻って来ました。私は神の奇蹟を否定することは出来ません。そして私の見た多くのことはほんとに奇蹟であります。

私は少し以前に朝鮮ソウル（京城）の或古い高等学校の講堂に坐って居りました。その街はそのわずか前に若人の流血の騒ぎのあった処であります。その夜の私たちの集会には五百人以上の若い朝鮮人が集りました。全ソウル地方部を通じて結婚した信者はたった二人だと聞きました。そこの会員たちは皆前途の希望に燃えた若人たちばかりであります。この集会を司会したのは髪の赤いユタの農村出身の青年でありました。彼は権威を以て司会し、この人たちの言葉を容易に語りました。集会の後で彼等は彼の周辺に来てその手をさしのべ彼はその暖い腕を彼等の肩にかけました。私は人々の心を変えるイエス・キリストの福音の能力に驚きました。

それから私たちは朝鮮の南端の釜山と云う落付いた街に行きました。私たちは波止場に近い広場で街頭伝道を行いました。約百五十人ばかりの知識欲にかられた人たちが集まりました。フロリダ出身の宣教師が語り始めました。私はそこで私たちを案内してくれた会員である一人の軍曹と共に群衆の中に入って行きました。或程度英語を語る一人の朝鮮人がその軍曹に次のように言いました。「あの若い人は、ここにどのぐらい居たのですか？」。

「二カ年間」と答えました。

「いや、もっと長いでしょう。アメリカ人はあのように朝鮮語を話すことは出来ません」

私はマルコ伝に記された救主の言葉を思いました。

〝……彼等は新しき言を語り……〟（マルコ伝十六—十七）

私はまだ大学生の頃、このタバナクルに坐って一人の兄弟が主イエス・キリストを知ることによって世に平和がもたらされると言ったことを覚えて居ります。私は物事を批判的に見る時代であったので、そんなことが起り得るだろうかと思っていました。私は最近、それが如何に生じ得るか、その示現を一べつすることが出来ました。

先日私たちは日本の広島に居ました。私たちは丁度十五年前の一九四五年八月六日、最初の原爆の閃光によって八万の生命が奪われた場所で今は美しい緑の草の生えている公園に立っていました。その後更に八万の人が原爆病によって死んで行ったのであります。そのような場所に立っていることは誠に身のひきしまるような思いでした。そこにはこの説教壇位の記念碑があり、その碑面に日本字で〝安らかに眠って下さい過ちは繰返しませぬから〟と刻まれてありました。

そこには伝道部長と広島からの一会員と私と三人でした。その会員は日本の陸軍に九年間務めた人でした。私は

原爆を落した国から来た末日聖徒イエス・キリスト教会の一長老でありました。彼は通訳を通して心をこめて次のように言いました。

「宣教師を送って下さったことを神様に深く感謝致します。昨夜も私たち夫婦はいつものように跪いて、実際に私共の生命を救った二人の若い宣教師の最初の訪れを感謝したのでした。私たちはこの世に於ても又来世に於ても何の希望もなく自暴自棄になっていたのでした。彼等は私たちを教え私たちの生活に目的をもたらしました。私の変化は実に妻の驚嘆するばかりでした。私は今彼女に福音を説きバプテスマをほどこそうとしているのです」。

これが平和が世にもたらされている様です。このことが霊魂から霊魂えと拡がって、全地の人々がイエス・キリストを神の息子、人類の救主、私たちの長兄、平和の王子と認めるでありましょう。

二、三ヵ月前の或日私は証会に坐っていました。一青年が手紙を持って立上って言いました。

「私は今、曾てなく幸福であると思います。私はここで多くの経験を味い、それらは私を幸福にしてくれました。けれどもこの手紙が、ほんとは私の心を暖めてくれます。私の父は曾て活ぱつな会員でありましたが、飲み始め母はその為に非常に悲しみました。私が別れる時父は言いました。

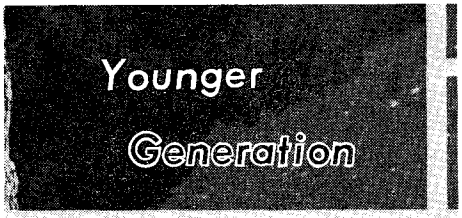
『息子よ、私はお前に恥しくない生活をするように努めるよ』」

その宣教師は続けて言いました。

「昨日私は父から手紙を受取りました。それによりますと彼は先週大祭司に聖任され、私たちワード部の副監督に按手任命されました。そして彼は始めて家の手付金を払うことが出来たのです」。

これらが私が宣教師たちと交って、見た或奇蹟であります。私はこの親しく交ることの出来た教会の計画に感謝の言葉もないのであります。このような組織は私たちの教会以外に世の何処にも見られないのであります。そしてこれに感化されるすべての人が善に導かれるのであります。

みわざは地球の他の側に於て前進して居ります。私は少年の頃、ここに坐ってグラント大管長が日本の伝道の困難さに就て、又失望して他の地に任命されるよう主に祈ったと告げたことを思い出します。皆さんは北部極東伝道部の宣教師たちが本年度に於て平均六名の改宗者を導いたことを御存じですか？　これ等多くの人たちはクリスチャンの民ではありません。この方面の宣教師たちは東洋の宗教に育った人たちをイエスの証に導き、改宗しているのであります。神よ、彼等の献身と、忠実を祝福し給へ、主が私たち故郷に在る者をして、徳高い生活をして、全世界に拡がる、主のみわざを援けることが出来るようになさしめ給わんことをイエス・キリストの御名によりお祈り致します。



フーちゃんの便り

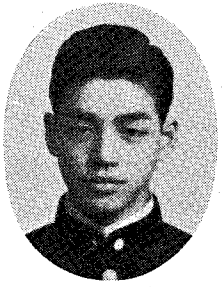
（この手紙は東京中央支部より昨年の五月にアメリカアイダホ州のボンネビルハイスクールに留学した成田富士夫兄弟、ニックネーム〝フーちゃん〟の便りです。）

ここアイダホファールスはロッキー山脈のふもとにあって、アイダホ州ではボイスに次ぐ大きな町である。人口は約三〇、〇〇〇人東京から来た僕にとってはとても淋しい町です。しかしここにはアイダホ、ファールスの神殿がスネーク川のそばに真白く建っています。とってもきれいですよ。私はこの神殿を見るたびに日本にも早くこの様な立派な神殿が出来ないかなと思います。

私は大学へ入学するために今年の五月に渡米しましたが、一年間英語だけ勉強するために現在高等学校に通っています。今の高校はボンネビル・ハイスクールと云って一九五八年に開設されたまだ新しい公立高校です。町の中心からはなれて広い運動場をもち、二階建のコンクリート造りの校舎、そして講堂いろいろな設備をもった美しい学校です。学年は一年から四年まであり六〇〇人の学生が出席しています。学生の大半はモルモンであって、日本に居た時の高校にくらべるととてもうらやましい限りです。学校の科目の中にモルモン教会歴史の時間まであり、先生は現在日本伝道部長の親類の方でグランド・アンドラス先生です。僕はこの先生をアンドラス兄弟と呼んでおりますし、他の学生も同じです。先日先生から証を書いてもらったので同封致します。

ヤンガージェネレーション

さて学校の行事の中で特に面白いのを書きましょう。まず始めて高校に入学して来た一年生及び編入生は学校が始って二週間目にイロシエイションと云うお祭の為にさんざんな目に会う。イロシエイションとは一日中四年生の言う事にふくじゅうしなければならないのです。例えば男の子に女の子のドレスを着て来いと言われたら翌日はその通りの服装をしなければならないのです。全くアメリカと云う国は面白い事をする所だと思いました。この事については日本におられる宣教師の方も良く知っていると思います。



成田富士夫

食事時間ともなると大変である。学生食堂の中に若い学生の声でそうぞうしいのはいささかあきれる。そして何時も男の子や女の子が集って日本の事を聞きたがるのでその説明に大変。なにしろ英語がまんぞくに話せないから全く身振り手まねの大ふんとうである。こんな時に何時も思うのが米国に来てとても仲良しになったグローバーク長老がいたらとても助かるのだがと考えてしまう。彼は今年の九月に日本の宣教師として行かれ、東京中央支部から大阪阿部野支部で現在伝道しておられます。全くアメリカの学生は親切で話し合っていても気持が良い。

ところでロー長老は今年の秋に結婚しまして、来年の五月に赤ちゃんが出来るそうです。マース長老は現在リックスカレッヂに行って毎日一生懸命に勉強しています。そして今年はB・Y・Uに行くと言ってました。ハンフリー長老はお家が近いので毎日逢っております。夏にはゲタをはいて良く遊びに来ました。クラースン長老はソルトレーク市でお仕事をしておられ新井兄弟と昔同僚だったとかで良く家へ来ます。そして日本の事を思い出して懐かっていますよ。高橋長老はカナダに帰られて、今はお仕事をしておられます。時々日本の皆様に宜しくとの便りが来ます。彼らは日本語は日本を去る時のままで僕と話をする時少しも困りません。そしてまたもう一度日本へ行くのだ。そして皆と日曜学校に出席したり、ウドンカケとラーメンを食べて、ゴハンにツケモノとタクワンをとても食べたいと言っています。

彼等こんなに日本に行きたがっています。そして皆様に宜しくとの事でした。

私自身もこの米国に参りまして証を強くしました。一九五九年の七月二四日伝道本部に於いてロー長老からバプテスマを受けて一年四ヵ月、その間に執事、そして五月祭司の職を聖任されて本当に私はもっと早く何故バプテスマを受けなかったのだろうと後悔しております。私が教会を知ったのは、小学校六年生の時で、その時の伝道部長は、ヴァイナル・ジー・マース長老でした。しかしこの外国の土地に来てみると支部のために何か働けばよかった。日曜学校のレッスンも良く聞いておくのだったと後悔しています。昔ことわざに、〝可愛い子には旅をさせよ〟と有りますが全くその通りです。

外に出て始めて親の有難さ、また兄弟、姉妹の愛がどれほど大きなものか知りました。神は私達にいつも大きなる愛を持って接して下さっています。そしてその中の救いの計画は最も大いなる御業ではないでしょうか。この米国の兄弟姉妹に接して世界中のモルモンの

ヤングージェネレーション

――成田富士夫兄弟の先生の証詞――

一九六〇年十一月四日、アイダホ州ユーコンにて。

私の宗教学科で学んでいる成田富士夫君は私に証詞を書くように依頼しましたので私個人の証詞のいくつかの点をあげて見ようと思います。

私が七才になる約二週間前の一九〇五年三月、私は祝福師の祝福を受けました。私はこの教会が力を増し、立派になっていくのを見るだろうという約束を受けたのでした。その当時教会には約四十五のステーキ部がありましたが、ほとんどユタ、アイダホ、アリゾナの諸州に限られていました。今日では三百を越え、合衆国の多くの所にある他に、英国、ニュージランド、オーストラリアにもあります。私は二つのステーキ部長会で奉仕しましたが、そのうちの一つには十七年九カ月の間奉仕しました。今私の子供は、合衆国の東海岸と西海岸に組織されたステーキ部の役員をしています。

何千人もの青年男女が自分達の家を離れて伝道に出かけるのを見るときに、私は五十年以上の前に与えられた、教会が力を増し立派になっていくのを私が見るだろうというこの約束を思い返すのです。私は私自身の名前を自分が知っていると同じ位に、ジョセフ・スミスが天の御父と御子とを見たということをよく知っておりますし、又いわゆるモルモン教会が真にイエス・キリスト教会であるということをよく知っております。そしてこれをイエスの御名によって申上げます。アーメン。

私は教会の宗教学科を教えて三十年になります。これらの年月を通して、私の教え子は伝道のお召しに応じてあらゆる大陸にいきました。このようにして、神の王国の事において私は偉大となり力強くなるだろうという私に与えられたもう一つの約束が成就していっているのです。

成田富士夫君はすばらしい青年で、言葉に進歩を見せています。

グラント・M・アンドラス

兄弟、姉妹は皆実に親切であると信じており私は御父が生きたまいます事を強く証し致します。どうかまだバプテスマを受けていないお友達の為に私達は強い信仰と大きな愛をもって助けなくてはなりません。そして私、この外国の地より皆様の上にいつも神様のお導きと祝福があります様に祈らせていただきます。

成田富士夫（二十才）

考える葦

人間は自然のうちで最も弱い一茎の葦にすぎない。しかしそれは考える葦である。これをおしつぶすのに、宇宙全体はなにも武装する必要はない。風のひと吹き、水のひとしずくも、これを殺すに十分である。しかし、宇宙がこれをおしつぶすときにも、人間は、人間を殺すものよりもいっそう高貴であるのであろう。なぜなら、人間は、自分が死ぬことを知っており、宇宙が人間のうえに優越することを知っているからである。宇宙はそれについては何も知らない。……

空間によって、宇宙は私を包み、一つの点として私を呑む。思考によって、私は宙を包む。

（パスカル「パンセ」より）

ヤンガーシェネレーション

「私の証詞」を書くようにと言われた時、私は何を書いてよいのか、わからず私は自分の信仰の浅さをつくづく感じないわけにはいきませんでした。又それと同時に大変情無い思いを味わいました。教会生活も早一年になりますが、福音を勉強する時に、福音を実践する事がいかに意義あり重要なことか知れば知る程それに対して努力を払っていない自分との間に隔たりが出来てしまい苦しみます。ガンジーは意志に実行が伴なわなければ、自分自身に対して不正直だと言っていました。彼の言葉を借りれば私は不正直者となるわけです。でも私が一番嬉しく思っていることは「日曜日、木曜日が大変楽しみである」ということです。それは簡単な何でもない事かもしれませんが、集会に集うことにより、信仰を深め、証詞を強め、自分自身の向上をはかるという重要な意義があると思うからです。

私が智恵の言葉を守るとき、友人に教会の話をするとき、集会に出席するときに少しずつの信仰を深めることが出来ると思います。そしてそれが私の証詞となるのだと思います。私は現在、子供の日曜学校の書記という責任をいただいていますが、一生懸命勤める積りです。指導者会に出席する機会もありましたが、そこに集う人々の立派な信仰に感動致しました。私達の教会でもあれだけ立派な讃美歌が歌えるようになりたい。そうならなければならないと思います。

私はこの教会が真実のものである（真実のものは唯一である）と確信しています。今後もその確信を一層強い確信として持つ事が出来ると思います。

大田原洋子（十八才）東京北支部

この教会の大きな目的を知って全く驚いている。宗教に対してはなはだしい誤解をしていた。バプテスマを受けて約二ヵ月、求道者の時をあわせて教会に来てからきっかり三ヵ月になる。その間、精神的な進歩は大変なものだ。なぜといって「正しいこと」を知ったから。周囲の人が家族がしている中に、そして又習慣となって気づかずにいる中に多くの間違を知るようになった。

また「正しいこと」を理解すると、それに伴なって、人生の目的というか、何か人のためになる何かをやってやろうという意欲が出来た。

梶山長老、オフムキニ長老が本当に真剣になって、良い教会だ、真の教会だ、と勧めるのでただそれだけを信用してバプテスマを受けた。

按手礼も終ると『オメデトウ』『オメデトウ』をいって握手してくれる。何がおめでとうかさっぱりわからない。

この頃になって「真の教会」の真のという意味がわかってきた。あの時、祝ってくれた兄弟姉妹、そして僕を「真の教会」へ導いて下さった多くの会員に感謝します。

僕も末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、大きな目的を成す為の一役をやりたい。そして、今はエンサインらしく明るく、元気にガンバルのだ。長兄イエス・キリストの御名により申し上げました。アーメン。

青柳英雄（十九才）東京北支部

米国のある詩人が「神と話した事もなければ、天国に行った事もないけれど自分は天国がある事を確信している。」という意味の詩を歌っています。私も神ともキリストとも話した事がないけれど、この詩人と同じように信じています。そして私達の為に命を捨てて

私の証詞

ヤンガージェネレーション

尊い犠牲者となったキリストの気高い精神をうけ継ぐ一員になれた事を本当にうれしく思っているのです。先日学校で「洗礼を受けたいのだけれどどうしたらよいかしら」と尋ねられた時、私は私達の教会について来世について少し説明をしてあげました。その時に私は本当に力強くこの教会が真の神の教会であると確信していると云う事が出来たのです。そして私の下手な説明にもかかわらず彼女達のとても喜こんでいる様子に私は神が共に話してくれたのだと思いました。ほんの小さな日常生活の中で自分の出来る範囲内で一人ではなくいつも兄弟、姉妹、キリスト、神の愛を感じながら生活できれば最高だと思いますがどうでしょう？

石黒静子（十六才）東京北支部

一九六〇年九月四日、始めてモルモン教会の存在を知った。空はすみさわやかな秋風がふいていた。それから約一カ月の後、十月九日にバプテスマを受けました。私としてはモルモンを知ってからバプテスマを受けるまでの期間を短かかったようなそれでいて長いようなみょうな気がいたします。四カ月たった今、モルモン教会を知る以前を考えてみるともっと前からこの教会を知っていたらということです。

私がこの教会を知った今、それ以前のなやみはやわらぎました。しかし知ってから、信じてからのがはるかに大きな悩み苦しみがあること、又あるだろうことを知っています。でもそれをのり切るときに真の喜びがそして幸福があることを信じています。そして愛する兄弟姉妹とともに祈り一歩一歩完全になる

為に前進するつもりです。

私があの日にモルモン教会の宣教師にお会い出来たことはほんとうに神とキリストとの御導びきだということそしてこの教会こそ神の回復された唯一の真の教会であることを証しすることができます。もちろんこのことは私の心だけが感じ取れることの出来ることです。すべてを救主イエス・キリストの御名によりて証しいたします。アーメン。

井出晴久（十六才）東京北支部

私がモルモンの一員となって約十ヵ月の月日が流れ去った。その間、私は神の教えに忠実であり実行していただろうか。すくなくとも忠実であり実行するよう努力したつもりです。しかしその努力もほかの兄弟や姉妹にくらべれば1/3にも及ばなかった。又多くの兄弟、姉妹のお話や証詞を聞いて、自分の信仰の薄さと、未熟な事がわかった。

神は現在、末日において、福音を宣べ伝える様におっしゃっております。故に私の様な未熟で無能な者でも必要としているのは、本当に末日において悔改めが必要である事がわかります。私はこの末日聖徒イエス・キリスト教会がジョセフ・スミスによって回復され、神様の恵み給うた唯一の教会である事を証詞します。又この教会で用いている四つの聖典が真のものである事も証詞致します。私は、信仰して、求め、主の御教えを実行して、愛をもって、もっと信仰を深めてゆきたいと思います。

芦沢幸子（十六才）東京北支部

私は常に
神様に感謝しています。

私はイエスが全人類の救い主であることを証詞します。又、ジョセフ・スミスが神様とイエス・キリストを見たと云うことを確信しています。又神様は骨肉の体を有していることを確信しています。又、四つの聖典が真の神から与えられたものであると云うことを確信しています。であるからこれらに基ずいているものは真の福音であることを確信しております。この上にもうけられているこの教会の組織が神権の力によって行なわれ神権から与えられたものであると確信しております。すべてのことをイエス・キリストの御名によって証詞しました。

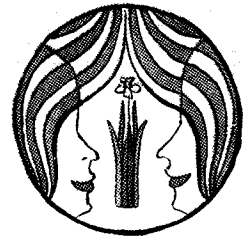
福田　実（十六才）東京北支部

私は自分の身の上に、いまだ信仰について奇蹟的な事、素晴しい出来事がおこったことがありません。多分私の信仰が弱いからでしょうか。でも、私は私なりの小さな信仰をもっています。信仰があるならば、又それ相当の証詞も私はもっています。私の証詞はほんとうに少しづつではありますけれども、積みあげられたものです。それは求道者の時代からの数々の集会への出席、又祈、兄弟姉妹の心からの愛、それらを身をもって感じたときつまり自分の体、自分の霊の中に入り込んで来たときに、自分自身の証詞というものが、確かなものになってきました。又、友達（非教会員）と論争するとき、現在の自分は、はっきり彼らに言い切ることが出来ます。そして決してこの事が私をぐらつかせたりは致しません。友達と論争すればするほど私の確信は強まってゆくばかりです。不思議です、まったく自分の概念が、ガッチリしてきました。全てイエス様の御名により。アーメン。

酒井　肇（十九才）東京北支部

ヤンガージェネレーション

あなた自身のために語れ



マリオン・D・ハンクス（七十人会最高評議員会々員）

〝言葉は最もよく人を表す、語って下さい。私が貴方を知ることが出来るように〟

ベン・ジョンソン

〝猿は非常に感情的な動物であるが、語ることが出来ない〟と或人が云うたがこれは人間の最も大切な明確な属性を比喩的に指摘している。それは言語言葉を通じてお互に交通する才能である。彼は又同様にそのような属性を持っている大きな祝福と、重大な責任に就て強調し、我々の或者は、よりよくそれを利用出来ると言っている。

〝或場合に動物は沈黙の内に人間よりもよく語ることは確かだ。私は口を開く度に非常な困難を感じる〟ある若い人が言った。

我々の内多くの者が、いかにして我々自身を効果的に表現することが出来るかを知らない。けれども我々は学ぶことが出来、殆どすべての人が自分の考えを、はっきりと正しく確信を以て伝えることを学ぶことが我々の成功と幸福にとっていかに決定的なものであるかを理解している。

〝私に正しい言葉とアクセントを与えよ、然らば私は世界を動かすであろう〟

ジョセフ・コンラードはこう言った。実際において我々の殆んどの者が世界を動かそうと望んでいるわけではない。我々は唯、確信を以て理解されるように語り得るようになりたいと欲しているのである。何をいかに語るかと云うことが先づ第一の問題であることを知るべきである。

第二次世界大戦中に海軍に務めている三人の末日聖徒がやはりその息子さんを海外に兵士として出している友好的な或家庭に招待された。その家の主婦は習慣に従って夕食の前にアルコールの入ったカクテルを差出した。若い海兵の一人は当惑して、犯すことを恐れコップに手を差伸べることをためらった。他の一人は招待により侮辱されたと思い（彼女は勿論彼等の宗教に就て何等知らなかった）憤然として飲むことを拒み主婦を当惑させた。三番目の者は、にっこりと微笑んで、ねんごろに彼女に感謝し、静かに彼等の内誰もがアルコールを口にしないことを説明した。その夜福音に関心を持った家族によって三人の内の或一人が教師として招待を受けた。誰がその特権を持ったかは言わずともわかることである。

言葉の能力に就て考えてごらんなさい。言葉を以て我々は祝福することも、呪うことも批判することも称讃することも、真理を教え

ることも或は偽りを教えることも出来るのである。我々は打ち壊し突き刺し、悪に誘惑し、不潔な思想及び不健全な物語りを植付けることも出来、又我々は言葉を使って霊感し勇気づけ、同情を示し幸福を分ち合うことが出来る。言葉はゴシップに使うことも、暴動を起し、よい名を傷つけることも出来、又慰め、忠告し、信仰を教え、叱責し悔改めを叫ぶことも出来る。我々は〝ハイ〟又は〝イイエ〟と云うことも出来る。我々はあざ笑い聖なることを軽々しく取扱い言葉によって人々をつまづかせることも出来る。又我々は礼拝し、祈り許すことも出来るのである。言葉をもって我々は天父に語り、その善意と愛を証しするのである。

このように言葉は道具である。その効果は我々がそれをいかなる精神を以ていかに如何なる目的に使用するかによって決定される。

知識を以て、よき判断を用い、沈黙すべき時を知って自分自身の為に語りなさい。そそのかされるとも悪を口にしないようにしなさい。我々の行動を言葉に一致させなさい。これらが人にとって大事な機会である。我々は更に純潔でなければならない。言葉はその心にメッセージを伝える。真実さは心を打つものである。

我々は若い末日聖徒が福音をよく知り、それを教えそれによって生活するに充分な信仰と勇気を持っていた為に、いかに多くの両親を信仰に導きいかに多くの級友、隣人、友人を教会に導き、いかに多くの軍人がバプテスマを受けたかを知ることは恐らく出来ないであろう。もしも教会のすべての若い人が福音を学んで彼自身の為に語るなら如何に素晴らしい収獲がもたらされることであろうか？

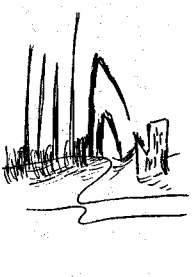
学校で、職場で遊び場で、はっきりと交際し確信を以て生活することがいかに大切なことであろうか。

だから
学校であなたの友だちに
神学部で委員会で弁論会で
証会に立った時、あなたの部屋で跪いた時
年長の人に、病める人に、悩める人に、孤独な人に、恐れる人に
あなたの両親に、家族に、生徒たちに
あなたの使用人に
あなた自身の為に語りなさい。

僕の夢

僕の夢は大会社の社長になることです。この頃は、よっぱらいが多くなっていますが、そのために事故や犯罪が毎日のように新聞にのっています。僕が社長になったらお酒を飲む人にそれがどんなに害があるかを話してやめさせます。もしその人がどうしても飲むというのなら、その人は会社をやめてもらいます。そして僕が会社の人々とえんかいをする時はみんなジュースやサイダーにします。お金持ちになったら、家がなくて困っているまずしい人やお父さん、お母さんのいない子供たちに家を建ててやったり、お金をあげ、又職のない人々には職を与えてやります。僕はこうしてみんなが明るく平和に暮せるようにしたいと思っています。

八木沼信二（十二才）名古屋支部



〈大会説教〉

我が若人たちに注目せよ

ソープ・B・アイザックソン
（管理監督会）

マッケイ大管長、モイル副管長、スミス十二使徒会長、並に我が愛する兄弟姉妹たち、私は今私が皆さんに語ろうとする話に対する皆さんの関心と信仰と祈りに対し心から感謝致します。私は早くから、私自身は誠に取るに足らない者で何事も出来ないことをよく知っていますので、すべて主のみたまにお頼りしている次第であります。

私はアロン神権出身の約八千名の現任宣教師に称讃の言葉を呈したいと思います。彼らの大部分は、わずか数ヵ月前には、小さな執事、教師又は祭司でありましたが現在は世界の各地に於て、福音を宣べ伝えております。私は又彼らの両親や家族に対しても敬意を表したいと思います。彼らの大部分は模範的な家庭から来て居ります。

教会の宣教師システムが始められてから、これは大体の見積りですが約十万の宣教師が殆ど世界中に派遣されて居ります。宣教師システムは、その興味深い歴史を通じ疑いもなく教会の大きな原動力となって居ります。ここに在席します私たちの多くが、私たちの今日あること、即ち教会の会員たることを遡って行けば或素晴らしい宣教師の働らきに負うて居るのであります。そして今から百年たって、ここに居る私たちすべてが居なくなった時、恐らく数百万数千万の人がその教会会員たることを遡って或素晴らしい宣教師の働らきに負うていることを見出すでありましょう。

私たちはよくこれ等若い人たちをインタビューして伝道に行くことに就て語ります。私たちが彼らに問う質問の一つは、

「貴方は伝道に行きたいですか？それとも誰かが貴方に行くように強いるのですか？」

私たちはいつも次のような力強い返事を聞かされます。

「はい、私は伝道に行きたいのです。私は小さい時から長い間、それを計画して来ました

た。」

或場合に私たちは彼らに次のように問います。

「誰が貴方の伝道の為財政的援助を与えてくれますか？」

彼らの多くの者が今朝マッコンキー兄弟が提案したような、彼ら自身で貯蓄したと言う素晴らしい返事をします。

又軍隊帰りの素晴らしい青年たちはよく次のように言います。

「私は軍隊に務めている間に、伝道に備えて貯蓄しました」と、

又或人々は次のように言います。

「私は喜んで自分の自動車を売り、その他の資金を合せて伝道に備えます」。

勿論大部分の者が彼らの伝道中、その両親が支持してくれますと答えます。けれども又よく或親友、或は隣人又は親戚が彼らの伝道を援けてくれる言います。又他の者は、彼らの定員会が喜んで援けてくれますと答えます。

これらの若い人たちは伝道に出かけることを大きな祝福と感じ決して重荷や犠牲と思って居りません。ほんとに、これらの若い人たちは祝福され讃美されて居ります。私たちは彼らが伝道に出発する前に皆、主の僕の按手により宣教師に任命され祝福を受けたことを覚えるべきであります。

或場合に私たちは宣教師候補者に尋ねます

「貴方は福音の証を持っていますか？」

「はい私は証を持って居ります。それは私が将来に期待する程強いものではありませんが証を持って居ります」

そこで私たちは宣教師候補者に、

「貴方は、ジョセフ・スミスが神の予言者であることを知っていますか？」と尋ねると、いつも彼らはその眼を大きく見張って、

「はい私はジョセフ・スミスが予言者であることを知って居ります」と気持よく答えます。

「貴方はデビッド・O・マッケイ大管長が予言者であることを知っていますか？」

「はい私はデビッド・O・マッケイ大管長が主の予言者であることを知って居ります。」

彼は貴方を見つめてこう答えます。

そこで私たちはその候補者たちに

「世の中に何か貴方たちを変えるものがありますか？ 誰か貴方たちの心を又は証を変える者が居ますか？」と尋ねますと彼らはその眼を見張って、

「この世の中に私の心を変える何物もありません。何となれば私はジョセフ・スミスが神の予言者であり、デビッド・O・マッケイ大管長が予言者であることを知って居るからであります」と答えるでしょう。彼らはそれをよく知っているのであります。

彼らは如何にしてそれを知っているのでしょうか？ 彼らはそれを証しする聖霊の能力と賜によりそれを知っているのであります。彼らは予言者ジョセフが御父と御子の大いなる示現に就て述べた時と同様に語るのであります。

「私は実際に光を見た。その光の唯中に二人の御方を見た。そしてその方々は真実私にお言葉をかけたもうた。私が示現を受けたと言うために憎まれまた迫害せられても、なおそれは真実である。そして私がこのように言うために、人々が私を迫害し罵り偽ってあらゆる悪口をあびせている間に、私は自分の胸の中で語るようになった。「何故真実のことを話すから私を迫害するのか。私は本当に示現を受けたのだ。私がどうして神に抗らえようか。何故世の中の人は、私が本当に見たものを見ないと言わせようと思うのか。私は示現を受けたのであるからそれが事実であるのを身を以て知っている。私は神がそれを知りたもうことを知っている。私はそれをうち消す

ことはできなかった。また敢て打ち消そうともしなかった。私は少くとも、本当にあったことを打ち消すならば神の怒りを受けて罪の宣告を受けることを知っている」と〃（ジョセフ・スミス二・二五）

多くの場合、若い人たちは私が何か彼らの証を変える環境又は教師がありますかと尋ねる時、彼らは進み出てきっぱりと、「私はジョセフ・スミスが神の予言者であることを否定するよりも死ぬ方がよい」と言います。

貴方はこのような若い人たちに就て、心配しますか？　いいえ、いいえ、私たちは将来この大いなる若人たちの強大さを見るでありましょう。

最近私は或素晴らしい外科医の話を聞きました。数年前彼がまだ会員でなく陸軍に務めていた時、二、三人の若いわがモルモンの宣教師たちに逢いました。その時、彼は彼らを知らず何かぞんざいな言葉使いをしました。この若い人たちの一人が落付いた態度で率直に、この医者に向って、彼らが如何なる者たちで何をしているかに就て述べました。医者はそれを聞いて彼が彼らに対してとった態度に就て大変恥しく感じ遺憾の意を表しました。間もなくこの医者はこれらの若い人たちをほめ敬ってその言葉に耳を傾けました。

彼は家に帰ってその妻にこの優秀な若者たちのことを話しました。彼は彼らが彼に語った或ことに就て告げました。この人たちは実際に科学を学んだ人でもなければ、又大きな経験を持った人たちでもありません。けれども彼はこの若いモルモンの宣教師たちから多くのことを学びました。そして直ぐ彼は彼らが科学者ではなく神の人々であることを認識したのでありました。彼は彼等に聞くことを学び、其後久しからずして妻と共に教会に入り、今日では素晴らしい会員となったのであります。

この立派な医者はよくこれらの素晴らしいモルモンの宣教師たちの為に主に感謝を捧げます。何故なら彼は今六、七人の息子を持ちそしてよく彼らに彼が数年前逢った、彼に福音を教える責任を持った、そして彼と彼の妻を教会に導いた立派なモルモンの宣教師たちのようになるようにさとしているからであります。

我が宣教師たちは受け取ることに於て祝福されています。けれども、もっと大切なことは、彼らは与えていることであります。彼らは自分自身に保持する為に受取るのではありません。他に与える為に受取るのであります。受取ることに於て彼らはパレスタインのガリラヤ湖及び死海のようであります。与えることに於て彼らは受入れ且つ与えるところのガリラヤ湖にのみ似ているのであります。それに反し死海は受取って自身の為に保持しているだけで何物も与えないのであります。受け取って与える者と受け取るだけの者との相違はよく次の聖地の二つの海の描写に述べられています。そして私は私たちの各人は今このガリラヤ湖のようになるように決心すべきであると思います。

〃一つは新鮮で、その中に多くの魚が居ります。そして美しく緑に色彩られて居ります。樹木はその枝を拡げ、生命の水を吸上げるべくその根を深く地に下して居ります。その岸には主の時代に遊んでいたと同様の子供たちが遊び戯れて居ります。主はこの湖を愛し、その寓話を語る時、銀色の湖面を見渡したことでありましょう。そしてほど遠からぬ広野で主は、パン片と魚の奇蹟を以て五千人の人を養ったのであります。この海（ガリラヤ湖）をつくっているヨルダン河は岡の上から流れ出て居ります。それは大陽の光の下に微笑み人々はその近くに家を建て、鳥はその巣を設

け、すべての生物が幸福そうにその周辺に生存しているのであります。ヨルダン河は南方に流れて、もう一つの海に注いで居ります。そこには魚もはねず、葉も生い茂らず、小鳥の歌も聞えず又子供たちの笑声も聞えません。旅行者たちは事業上の急務でもない限りここを通過しません。空気は重くその水面に垂れ下り、人も動物も鳥もその水を飲もうとは致しませぬ。何がこの隣接する二つの海をこの様に相異させているのでしょうか？　ヨルダン河ではありません。この河は両方に同様のよい水を注いで居ります。この二つの海が横わっている土地でも又その周辺の地方でもありません。ガリラヤ湖は受入れて与え、決してヨルダン河の水を自分自身に保持して居りません。一滴がその中に注ぎ込む毎に他の一滴が流れ出て居るのであります。受取りと提供が日々同等の量を以て進行しているのであります。他の一つの海は欲深く受取ります。受入れる毎滴を保存します。ガリラヤ湖は与えて生きて居ります。もう一つの海は何物をも与えません。それは〝死海〟と名付けられて居ります。（ブルース・バトン）

この受入れと提供の比較により、大いなる伝道計画が貴方方の若い人たちに何をもたらしているか容易におわかりであろうと思います。何となれば彼ら若い宣教師たちは、すべての利己心を捨て、神聖な無私の業に向い、与えることの出来る。より豊富な貯蔵庫を持つことが出来るのであります。

私たちはアロン神権のすべての執事、教師祭司は、伝道に出る用意をすべきだと思います。この選ばれた若人たちは適切な訓練を受けるべきであります。昨年私たちは三万一千のアロン神権個人賞を優秀な若人たちに授与しました。この事は、これらの秀れた若人たちが、若し私たちが親として指導者として私たちの責任を果すなら皆立派な宣教師になり得ることを意味して居ります。

これらの若人たちはその伝道の為に準備して居ります。両親たちとアロン神権指導者たちは、すべてのアロン神権者たちの為に伝道への準備をその目標として、尽力しようとしているわけであります。

七年間―二年間の執事、二年間の教師、三年間の祭司、この勉学の行程に於て私たちはよく相互に関連して準備され、この七年間の終りに、これらの素晴らしいアロン神権者たちすべてが伝道えの準備完成と言う目標に到達するように望むものであります。そしてこの七年間のアロン神権計画の経験中に、この男の子は単に伝道期間の為ばかりでなくその全生涯の為の訓練を受けるのであります。

私たちは或若い人たちは悪い道に走っているのを知って居ります。私たちはその若い人たちに〝戻りなさい〟と言いたいのです。戻りなさい。まだ決して遅くはありません。私たちは貴方を援けたいのです。貴方は、まだ正しい道を見出すことが出来ます。私たちは貴方が主が若い人々を愛し給うことを知るように望みます。私たちは貴方が貴方の為に何が蔵の中にあるかを知り、且感謝するように望みます。私たちは貴方がイエス・キリストの福音は、貴方の全生涯を通じての大いなる安定力であると感ずるように望みます。

私は私の証を立てたいと思います。私は神が生きていることを知って居ります。私は主を愛します。私は私たちが自覚する以上に、主に近づき得ることを証します。けれども、それには謙遜さと努力が必要であります。そして私たちは少しでもそれに逆う道を歩く時は満足されないのであります。

神よ、私たちがよくその責任を果すように祝福し給え、イエス・キリストの御名によりお祈り致します。アーメン。

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋（十五）

ジョセフ・フィールディング・スミス著

第二部　時満ちたる神権時代の開始

第九章　ジョセフ・スミス、モルモン経を授かる—神権の回復

（千八百二十七—千八百二十九年）

十、ジョセフとオリヴァ、バプテスマを受ける。この使者は神権を授けた後、ジョセフとオリヴァに水の中に下りて行って互いにバプテスマを授けよ、バプテスマを授け終ったら互いに按手をして、われが汝らに授けた神権を再び授け合えと命じた。この事をせよと命ぜられた理由が二つある。第一にバプテスマを受けないうちに神権を授けることは組織ある教会の秩序に反する。従って二人はバプテスマを受けてから正規の方法で互いに神権を授けよと命ぜられたのである。

第二に、その天使は二人が自分たちだけの力ではできない事を二人に行った。当時この神権の鍵を握っている者は人間の中に一人も居なかった。それであるから、この「時の絶頂の神権時代」にアロン神権の鍵を握っていたこの使者は、この神権を授けるために遣わされねばならなかった。あの世へ行った人々が地球上に生きている人々のために、儀式を施し働きをすることは天の紀律に反するが、肉体をもった人間が行えないところは別である。それで一度死んで復活をした人々がその人間たちのために働きをすることが必要になる。死んだ者が生きている者に儀式を施してもよいならば、バプテスマのヨハネは教会で行われている通例の順序に従って、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリにバプテスマを施し、次にアロン神権を二人に授けたことであろう。

天使が先に命じたように、二人は水のあるところへ行っ

て、ジョセフがまずオリヴァにバプテスマを施し、次にオリヴァがジョセフにバプテスマを施した。水から出てくると、すぐに二人は偉大にして光栄ある数々の祝福を経験し、また「みたま」に満たされて、教会が世に現われることや末日に主の偉大なみ業の基が定まることに就いて予言し始めた。今や二人の心は明らかとなり、聖典の言の真の意味を悟ることができるようになった。何世紀という時の流れの中に、今や始めて二人の男が罪を赦すためのバプテスマを執り行う権能を帯びて地球上に立っていた。

しかし、反対を受けるおそれがあるので二人は神権を授けられたことや、バプテスマを受けたことを秘密にせざるを得なかったが、信頼のできる二・三人の個人的の友だちだけにはこれらのことをうち明けた。

十一、メルケゼデク神権の回復。 バプテスマのヨハネが訪れてから間もなくジョセフとオリヴァ・カウドリとはペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人からメルケゼデク神権を受けた。この神権が授けられた日附はわかっていないが、最初にアロン神権を授けられた日から数日後のことであった。千八百四十年に賜わった啓示（「教義と聖約」第百二十八章）には、その神権が授けられたのはペンシルベニヤ州ハーモニーとニューヨーク州コーレスヴィルとの間にあるサスケハナ河のほとりであったと言ってある。また千八百三十年九月に賜わった別の啓示（「教義と聖約」第二十七章）には、この神権の回復はペテロ、ヤコブ、ヨハネの按手聖任によって行われたが、この三人は「わが汝らに遣わして、汝らを聖職に按手任命し、汝らの使徒たることと、また汝らがわが名の特別の証人たることを確認し、また汝らが導きと教えを施す働きと、わが彼らに啓示せるところと同じものとの鍵を有つことを確認せしめたるかのペテロヤコブ、ヨハネ」であると言ってある。

十二、ジョセフ・ナイトからの援助。 飜訳の仕事が続けて行われていた中のこと、主はジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに物質上の援助を与えるため危急の時の友を一人遣わしたもうた。これはニューヨーク州ブルーム郡コーレスヴィルの住人ジョセフ・ナイト(初代)であった。ジョセフとオリヴァの二人が多くの時間をかけている様子を聞き及んだので、ナイト氏は三十マイルほど離れたところから時々二人のところへ食料をもって来た。これで二人はひきつずいて彼らの仕事を進めることができた。さもなければ、この仕事はおくれたにちがいない。

十三、ジョセフとオリヴァ、フェイヤットへ移る。 飜訳の仕事はひきつずきハーモニーで進行するさだめではなかった。ついに反対があらわれ、これがまた強くなって来たので、アイザック・ヘールさえも二人に対してにがにがしい感じを持つようになった。もっともヘール氏は正義と法と秩序とを信じてはいたが、ジョセフ・スミスの使命には

強い信仰を表わしていなかった。こうなっては明らかに住所を変えなくてはならなかった。オリヴァ・カウドリはモルモン経が現われたことに就いて、かねがね文通をしていた彼の若い友人、ニューヨーク州フェイヤットの住人であるデビッド・ホイットマーのところへ手紙を書いた。そしてここへ来てジョセフとオリヴァ自身とをフェイヤットにあるホイットマーの家へ連れて行って欲しいと言ってやった。デビッド・ホイットマーがよろしい、そうすると言ってきたので、千八百二十九年の六月に移転することとなった。

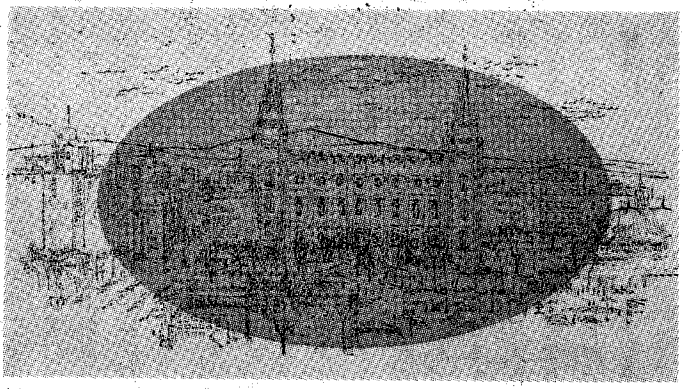
デビッドが二人を連れに行くためハーモニーへの旅に出ていた時、彼はハーモニーからやや離れた場所でジョセフとオリヴァの二人に出逢った。

数年後、デビッド・ホイットマーはこの出逢いのことを次のように誌している。「オリヴァの話によると、ジョセフは前以って彼に、私が第一夜をどこで泊るか、どういう風にしてその宿屋の看板を読むか、第二夜はどこで泊るかなどのほか、その日は夕食をとるためにそこへ来ると言って聞かせた。こういうわけで二人は私に逢うために出て来たのである、と。実際に起ったことは、全部ジョセフが前以ってオリヴァに言った通りであって、これには私も非常に驚いた」（ミレニヤル・スター第十四巻七六九―七七四頁参照）。

十四、ホイットマーの家で。 三人がフェイヤットへ着くと、そこにはデビッドの父ピーター・ホイットマー氏が居て喜んで彼らを迎え、またジョセフとオリヴァの仕事に就いてもっと知りたがって居た。ジョセフとオリヴァはホイットマーの家に無料で下宿させてもらい、またそのほか家の人々から時宜に適した援助を受けた。ホイットマー家のデビッドとジョンとピーター（初代）とはこの仕事に非常な熱意を抱くようになった。主は啓示を賜うてその一人一人に語り、彼らの時代の人々に悔改めを叫べと命じたもうた。

フェイヤットの町があったセネカ郡の人たちは好意をもっていたので、多くの家は予言者の伝える言葉をもっと知りたいと思う人々によって開放されていた。多くの人々は話を聞いて信仰を持ち、喜んで神に従う心を示した。すでにフェイヤットへ来ていたハイラム・スミスとデビッド・ホイットマー、ピーター・ホイットマー（初代）の三人はバプテスマを受けた。予言者がハイラム・スミスに、オリヴァ・カウドリが後の二人にバプテスマを施した。予言者の弟サミュエル・H・スミスは、予言者とオリヴァとがペンシルベニヤ州ハーモニーに居たときにバプテスマを受けた。彼は「この神権時代」にバプテスマを受けた三人目の人であって、千八百二十九年五月の二十五日に彼の罪の赦しを受けた。

系図



先祖への思いを深めよう

呼びかけ

神殿の仕事への呼びかけは、我らの愛する予言者ジョセフ・スミスによって真剣になされた。彼は神権の聖なる家、神殿から教会の生気と活力が湧き出でることをよく自覚していた。彼は生ける者と死せる者の強い霊的きづなの重要さを強調した。彼は代々を結ぶ永遠の輪がない限り、すべての連鎖は断ち切られることを知っていた。彼は不断の神殿の仕事を通して、彼の霊感された指導精神は決して壊れないコンパスとして、永遠の祝福の道を指すであろうことを見透していた。

〝私はすべての聖徒たちに、全力を尽して彼らの生ける肉親を皆集めて、ここに来て、結び固められ救われるように、そして破壊の天使が来る時に備えるようにすすめる。そして教会全体が全力を尽して彼らの使者を救い、その子孫に結び固め、その生ける者を集め、世の事に少しの時間を費さずとも、人が働くことの出来ない夜の来る前に為し遂げることはむずかしいのである。

よく次のような質問がなされる。

『我々は、すべてこれらの儀式を通じることなくて救われないだろうか?』等々

私は完全な救いはないと答えたい。

イエスは言われた。

『わが父の家には住処おほし。われ汝らのために処を備へに往く』

ここで家と言っているのは王国と解すべきである。そして如何なる人でも最高の王国に揚げられる為には、日の光栄の律法、完全な律法に留らねばならないのである〟

確に我々は深く父の王国に住むことを望み、天上の最高の段階、永遠の義に住むことを切望する。我々に又我々の家族すべての者に、その道が開かれているのを知ることは大きな喜びである。我々の予言者はその道を我々に示した。それはいばらの道でも、あてにならない道でもない。かえって我々が一度正しい方向に足を据えたら容易に従える道である。神殿の仕事は、この大きな計画に積極的に協力する最も簡単な道を備える我々の時間と手段、又は両方によって支持される。

さあ今日始めよう、そして明日の為にもっと強い建物を建てるように手伝おう。

時は今である

ブリガム・ヤングは次のような言葉で神殿の仕事の必要さと重要さを霊感的に強調し

た。〝聖徒たちはこの短い生涯を閉じる前に、神殿の儀式を受けなければならない。そして、日の光栄の王国と、神の面前に行く途上の多くの関所を通過する準備をせねばならないのである。

そこで主の神殿を建て、エンダウメントを受けて、永遠の神権の鍵を持ち、すべての言葉、徴を受け、天使及び我が御父の王国の律法に通じ、如何にして一段階から他の段階に通じ、完全な主の喜びに入るべきかを知らねばならない。

我々が我々の神殿と、その選びによって、行われる仕事と信仰に恩を致す時、我々は最高に祝福されていること。即ちテニソンの詩的言葉を借りるなら〝すべての時代の世嗣、時の最後の列に在ることを自覚する〟

引き延ばしてはいけない

或人々は何故、系図及び神殿の仕事を今、せねばならないのだろうかと不思議がるであろう。何故それが引き延ばしてはならないと主張されるのであろうか？何故後世の人々をして、その大部分を為させてはいけないのであろうか？これにはまわりくどい理由は要らない。ここにその直接の理由の若干を掲げて見よう。

(一) ジョセフ・スミスは宣言している。

〝我々の先祖に対する仕事は、主がこの世代の我々に課した最大な責任である〟

(二) 彼は又言っている。

〝我々が全力を尽して働いても、夜のとばりが降りる前に我々の任務を完了することは殆ど出来ないのである〟

(三) 一八三六年、聖書に有名な偉大なる予言者、エライジャがカートランドの神殿に於て、ジョセフ・スミスに権能を授け、他の神殿の活動と共に、この仕事を責任を以って始めるように命じたのである。

(四) 主は、判然と神殿の仕事を通して、先祖と子孫を共に救い出す特別の目的の為に、末日にエライジャを遣わすであろうと述べている。その声明の中で主は、この仕事が救主が来られる前に遂行されなければ、全地は大きな災禍を受けるであろうと警告している。

(五) もしもこの神権時代の神殿の仕事が引き延ばされるなら、決定的にして本質的な教会の主要な活動が中止されたことになるであろう。活動の如何なる面も、全体の計画にとって本質的なものである。各部門、又すべての他の部門がなくては完全に効果的なものとはならないのである。

(六) 我々は我々の死せる先祖が、日の光栄の王国に於て永遠の祝福を享受しようとして迅速な我々の神殿の仕事を首を長くして待っていることを繰返し何度も聞かされている。

(七) 救主は墓から出でた時、霊界に於ける伝道の仕事を始めたのである。この地上に於ける神殿の仕事は、我々を待っている先祖たちの居る彼方で、不断に行われている伝道に相伴う必要な働きとなった。

(八) 主はモルモン経の歴史に於て、決して神の子たちに不可能の任務を与えないことを、明らかにしている。かくして我々は、わずかの間も、救主とその予言者たちの命をないがしろに出来ないのである。今日、我々が我々の先祖の記録を探求する時、人間として出来るだけのことをすれば、我々の責任を適切に果していることが明らかにされている。

ここに我々の扉を叩く八つのノックがある。死んだ我々の肉親の為に極めて必要な義務を果す為に、忙しく働こうではありませんか。

（伝道部系図委員会会長　渡辺正雄）

■メルケゼデク神権■

「わが教会は末の世に於て須らく末日聖徒イエス・キリスト教会と称えらるべし」（教義と聖約百十五章四節）との主の御言葉の故に、当教会は前記の名称で呼ばれているが、この偉大な主の教会のバックボーンとなっているものは他ならぬ神権である。それ故、今月は当教会の神権管理図について説明し、我々長老定員会々員の立場について少し検討してみようと思う。先づ当教会の最高管理機関は、大管長及び第一、第二副管長より構成されている大管長会である。この大管長会のもとに十二人の使徒より成る十二使徒評議委員会があり、更にそのもとに七十人最高評議委員会がある。そして数人の十二使徒と、十二使徒会補助及び七十人会最高評議員会の全員が最高神権委員会を構成し、神権者活動を指導する。その最高神権委員会のもとに伝道部長会があり、伝道部長会のもとに伝道部のメルケゼデク神権委員会がある。これは伝道部長会々員及び必要に応じて定員会々長等によって構成される。

現在、当伝道部のメルケゼデク神権委員会の委員長はアンドラス伝道部長であり、副委員長はプライス副伝道部長であり、渡辺驪兄弟はその委員である。この委員会のもとに、長老、定員会が組織されるわけであるが、その目的は、定員会々員及びその家族の物心両面の福祉を図ることである。しかしながら、このような目的の達成にはいろいろな計画や活動や組織が必要とされる。それ故、残る紙面で定員会の組織について触れてみよう。もし長老の数が定員会の定数である九十六人の半数以下である場合には、長老定員会の代りに長老のユニットが組織される。しかし、幸いにして当伝道部には多くの長老がいるのでユニットは組織されず定員会が組織され、日本及び沖縄在住の長老は現在のところ第一長老定員会に属している。この定員会は会長会によって管理されるが、現在のところ会長として渡辺驪が、第一副会長として堀田秀司が召されている。しかし、日ならずして第二副会長が召され、又、会長会を補佐するための書記も選ばれるはずである。

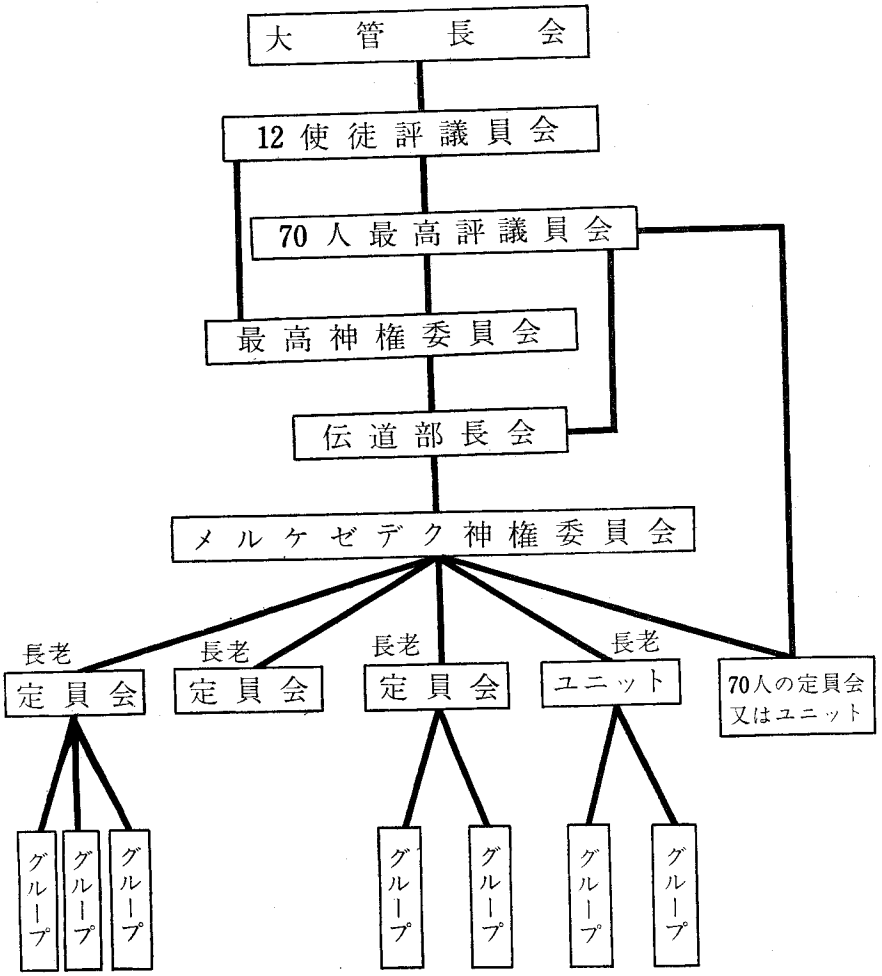
ところでこの定員会はいくつかのグループより成り、グループは各長老職にある会員個人より構成される。尚、グループにはグループリーダーがいて、グループ会員の指導に当ることになっている。

以上が管理図の大体の説明ですが、不備な点は大会等でお会いした時によく御説明致します。

さて私たちの今年の課題は、グループを組織すると共にグループリーダーを選ぶことであります。現在の計画では、東京近辺から組織し始めて次第に遠隔の地まで及し、できれば今年中に何とか皆まとめたいと考えています。尚、長老定員会のハンドブックが印刷され次第、皆様にお送りする予定ですし、又、地方部大会には出来る丈出席して、定員会のことを細く御説明すると共に、皆様方の御意見や御質問をうけたいと考えて居ります。終りに調査表作成に御協力下さいましたことを感謝し、主の祝福と導きが、皆様方の上にますます豊かならんことをお祈りします。

（第一長老定員会会長会）

神　権　管　理　図


大　管　長　会
12使徒評議員会
70人最高評議員会
最高神権委員会
伝道部長会
メルケゼデク神権委員会
長老
定員会
長老
定員会
長老
定員会
長老
ユニット
70人の定員会
又はユニット
グループ
グループ
グループ
グループ
グループ
グループ
グループ

Aaronic Priesthood

汝ら潔くあれ

ハリスン・T・プライス
（副伝道部長）

今年の五月の第二日曜日に、世界各地にある末日聖徒イエス・キリスト教会に属する青年たちは、みな同じメッセージを人々に宣べ伝えているにちがいありません。多くの国の言葉で、遙かな北の国に於て、さては海の島々に於て、この青年たちは、二人の謙遜な青年に天使が訪れた感激的の出来事を物語っているにちがいありません。

今から百三十二年前の五月に、一人の天使が実際に予言者ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに現われました。その場所は、ペンシルベニヤ州のハーモニーという静かな農村の近くでありました。古いモルモン経の原版に誌してある記録は、その時飜訳がようやく終って世の中に出版されようとしていました。主なる神さまは、一年もたたない中に、神の真の教会を再び地球上にお樹てになるでありましょう。昔の予言者たちが語ったそのすばらしい時、福音が転び行きてついてこの地球上に充ち満ちる時が始まろうとしています。

予言者とオリヴァ・カウドリを訪れたあの天使は、自分は新約聖書に誌されている「バプテスマのヨハネ」と同一人であると名乗り二人に次のような感激的の言葉を告げてアロン神権を授与いたしました。

「汝ら、われと同じ業に働く僕らよ。救世主の御名によりて、われ汝らにアロンの神権を授く。こは天使の導きと恵み、悔改めの福音、罪を赦すために水に沈むるバプテスマなどの鍵を握る神権にして、まことにレビの子孫が主の御前に再び義しきに適いて捧物を捧ぐる時まで、この世より決して再び取り去らるることなし」（「教義と聖約」第十三章）

今日、その数がますます増加している、日本に於ける当教会の兄弟たちは、この神聖な権能を受ける準備をして居ります。この神聖な権能の委託を分け持つ私たちの一人一人が「教義と聖約」第三十八章四十二節にある「また、汝ら悪しき人々の仲間より離れよ。己れ自らを救え。汝ら、主の器をもてるものは潔くあれ。誠に然り、アーメン」という訓戒をいつも忘れませぬようにお祈り致します。

日曜学校　ガイド

（4月用）

—復活祭のレッスン資料—

「復活後の主の足どり」

主は復活後四十日間、パレスチナにいる弟子などに、度々お現れになった。それは救主が十字架につけられた後に復活するという数多くの聖句の予言が成就したことを主御自身が自らをお示しになり、弟子たちがイエスこそ救主でありその復活も真実であることを、全世界に証させるためであった。

聖書には主の復活について、沢山のすばらしい出来事が、いたる所に書かれている。それらをまとめて救主はいつ、どこでどんなことをなさったかを次の聖句と一五四頁の地図を見ながら、過ぎし日の感動的な場面を偲び、〝主は真に生きてました〟という歓喜を新たにし、私たちの主に対する証を強めようではありませんか。

A　復活の安息日、エルサレムの女たちに

マリヤはうしろをふり向くと、そこにイエスが立っておられるのを見た。（ヨハネ二十〇十四—十六）

するとイエスは彼らに出会って、「平安あれ」と言はれた……（マタイ二十八〇九、十又ルカ二十四〇一—十）

B　復活の安息日、エマオに通じる道で、クレオパとその友人に

この日、ふたりの弟子が、エルサレムから七マイルばかり離れたエマオという村へ行きながら……語り合い論じ合っていると、イエスご自身が近づいてきて……一緒に食卓につかれたとき、パンを取り、祝福してさき、彼らに渡しておられるうちに、彼らの目が開けて、それがイエスであることがわかった。（ルカ二十四〇十三—三十一）

C　復活の安息日、多分エルサレムで、ペテロに（場所は確定ではない）

「主は、ほんとうによみがえって、シモンに現われなさった」（ルカ二十四〇三十四）

D　復活の安息日、エルサレムの弟子たちに

（トマスは不在）

こう話していると、イエスが彼らの中にお立ちになった。「……すなわち、モーゼの律法と予言書と詩編とに、わたしについて書いてあることは、必ずことごとく成就する……こうしるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる……」（ルカ伝二十四〇三十三―四十八）

E　復活後一週間目の安息日、エルサレムの弟子たちに（トマスを含む）

戸はみな閉ざされていたが、イエスがはいってこられ、トマスに……「信じない者にならないで、信じる者になりなさい」と言われた。（ヨハネ二十〇二十四―二十九）

F　ガリラヤの海べで、ペテロや六人の弟子たちに

そののち、イエスはテベリヤの海べで、ご自身をまた弟子たちにあらわれた。（ヨハネ二十一〇一―八）

G　ガリラヤの山で、弟子たちに

さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行って、イエスが彼らに行くように命ぜられた山に登った。そしてイエスに会って拝した。（マタイ二十八〇十六、十七）

H　多分ガリラヤで、同時に五百人の人々に

そののち、五百人以上の兄弟たちに、同時に現われた。（コリント前十六〇六）

I　ヤコブに（場所は不明）

そののち、ヤコブに現われ……（コリント前十五〇七）

J　エルサレムの弟子たちに―その後ベタニヤで昇天なさる

それから、イエスは彼らをベタニヤの近くまで連れて行き……彼らを離れて、天にあげられた。（ルカ二十四〇五十、五十一）（また使徒一〇一―九も読んで下さい）

「復活祭プログラム」

主のよみがえりを祝う四月二日の復活祭を間近かに控えましたので、今月のこの欄は復活についての記事だけを載せました。復活祭のプログラムは、各支部の日曜学校管理者が相談して決めてもよろしいのですが、私の一提案を掲げてみましょう。

大人の日曜学校

敬虔なる前奏　六十七番「主は光ぞ」
歓迎の挨拶　支部長
開会の讃美歌　百九「主の御霊は燃え」
聖句朗読　コリント前十五〇二十―二二
お話（五分）　イエスの使命（ヨハネ伝を終りまで精読のこと）
お話（五分）　現代にあってイエスの復活が我々に与える喜びと希望
讃美歌（全員）　百七二「主は生けりと知る」
Aコース　四十一章「復活」
Bコース　四十章
Cコース　四十一章
閉会の讃美歌　六十五「光の導き」

子供の日曜学校

敬虔なる前奏　四十番「主のよみがえり」
開会の讃美歌　会長会々員（第二副会長）
歓迎の挨拶　ヨハネ伝十一〇二五、二六
聖句朗読　なるべく生徒に「イエス様の復活」についてヨハネ伝二十章一―十八を物語り風に話してもらう。
お話（五分）

お話（五分）

教師が「私たちの復活」について簡単な解説。私たちは霊と肉体からできていること。亡くなったおじいちゃん、おばあちゃんに会うことができること。あるいは良い人が復活して平和な楽しい福千年の時代にイエス様と一緒に住むことなどは如何ですか？

分級

各クラスが復活についてのレッスンを行う。ここに載っているイエスの足どりなど、大きな地図をみながら割当てられた一人一人の生徒が各々一つの時件を説明してもらうなど又昨年四月のインストラクターによい視覚教材がありますから参考にしてみて下さい

日曜学校四月練習の讃美歌

讃美歌第百十七番、苅手を待ちつつ

元気よく練習しましょう。調子のよいうたですから、急いで早くならない様にしましょう。符点、音符をはっきりと歌う様にしないと、だらだらした感じになります。二節きりない歌ですから間奏を入れませんから、指揮者は一節と二節の間を三拍だけでなしに、心持ち休みを入れて下さい。

五月の練習の歌は「百六」

初等日曜学校四月練習の讃美歌

子等は歌ふ、十六番わが光

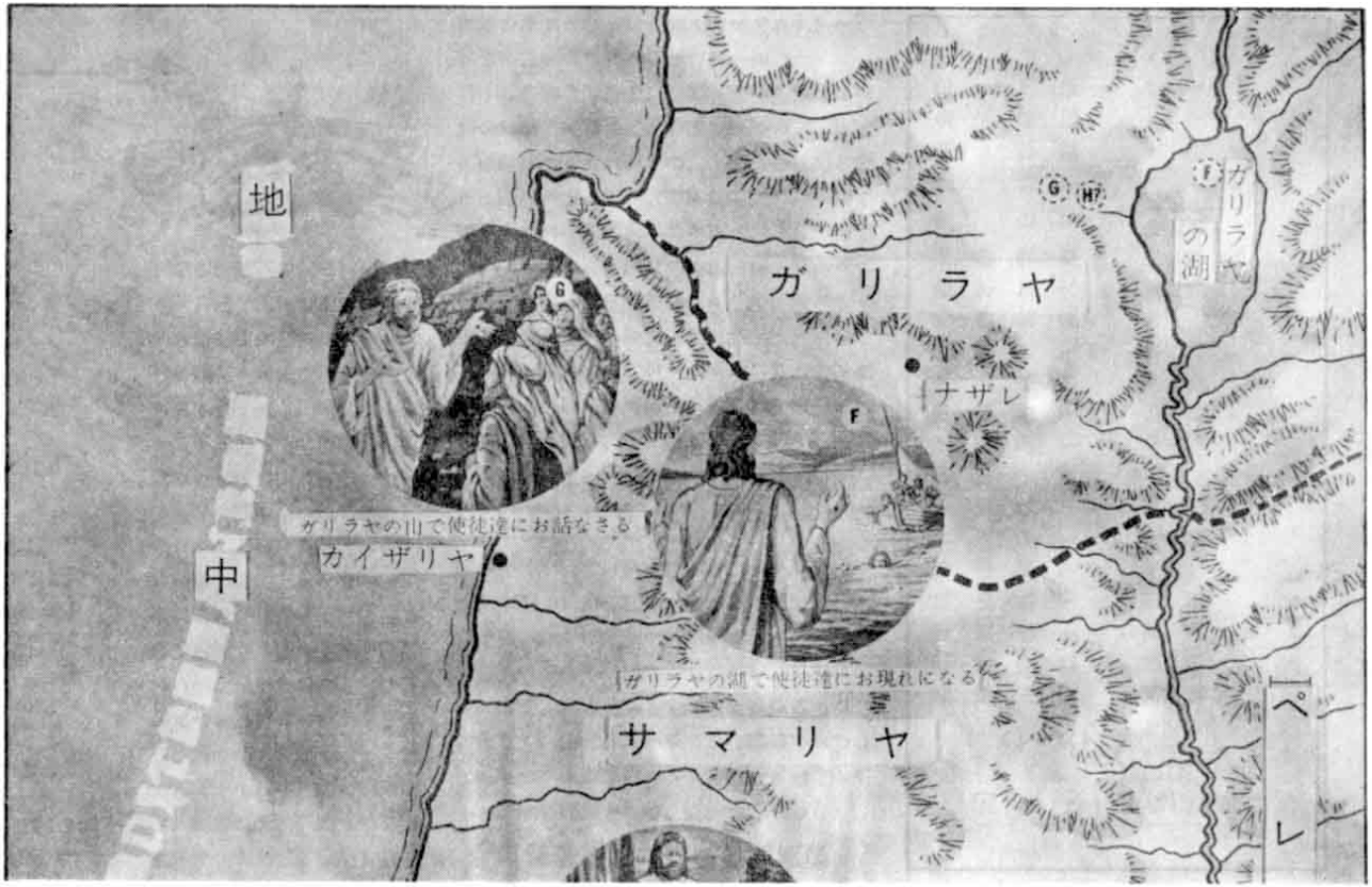
調子よく変化のある歌ですので、皆喜んで憶えてくれると思います。それには、まず指揮者がよく憶えて歌詞は完全暗記して下さい小さい方達はとても敏感ですから、教える人が本にかじりついていたり、言葉を間違えたりするとよく憶えてくれません。いつも注意する事ですが、符点、音符に注意して下さい三連音符もありますから、一拍の中に三つの音を当分に入れるのを練習して下さい。歌詞は一つの音に言葉が二ツ三ツ入る事がありますから、それもよく注意して下さい。

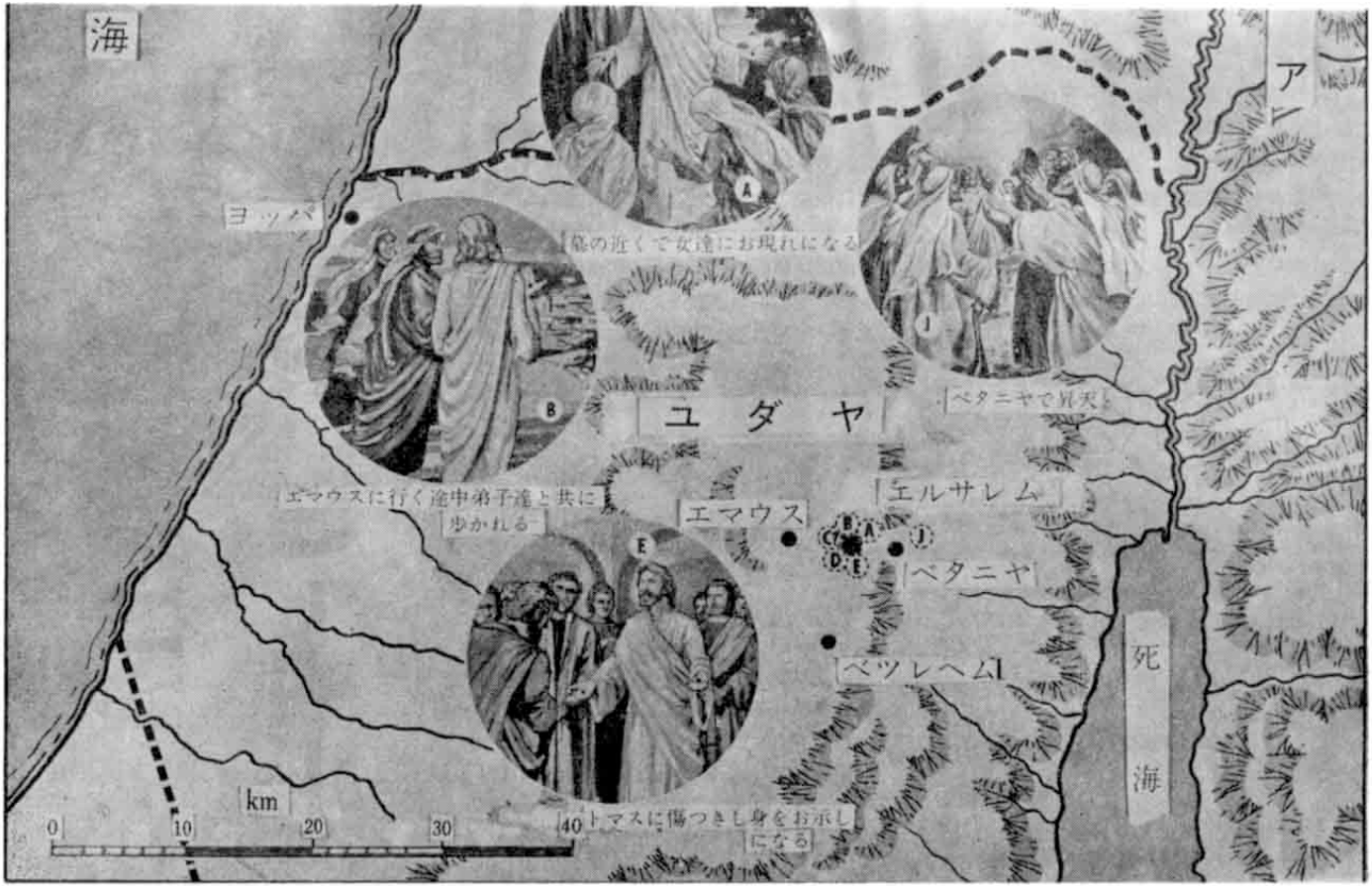
五月の練習の歌は二六番「しあわせ」です。

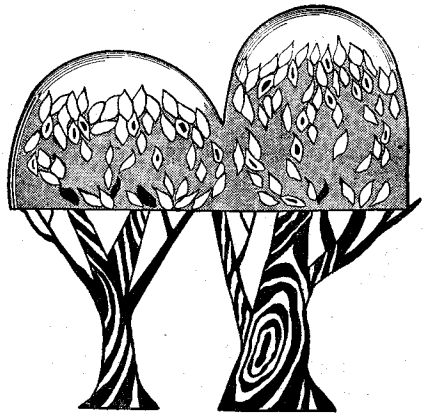
伝道本部だより

バプテスマ

篠原正弘	阿倍野	
川原宗二	旭川	
塩沢由子	群馬	
村山邦子	広島	
村山時子	〃	
管原蓉子	室蘭	
中野昌子	岡町	
西川一繁	〃	
小林弘子	小樽	
田中祐子	三宮	
小川嘉博	東京北	
吉村エミ子	東京南	
四十物清鳥	〃	
西本二六	東京西	
高橋哲雄	山形	
梁貞礼	ソウル・イースト・ゲート	
南君江	〃	
南清勝	〃	
金嘉顕	〃	
洪思熙	ソウル西	
李相守	〃	


地
中
ガリラヤ
ガリラヤの湖
ナザレ
カイザリヤ
ガリラヤの山で使徒達にお話なさる
ガリラヤの湖で使徒達にお現れになる
サマリヤ
ペレ
G
H
I
F
G


海
ヨッパ
墓の近くで女達にお現れになる
ベタニヤで昇天
ユダヤ
エマウスに行く途中弟子達と共に歩かれる
エルサレム
エマウス
ベタニヤ
ベツレヘム
トマスに傷つきし身をお示しになる
死海
km
0
10
20
30
40



MIA リーダー

4月用

「MIAスポーツについて」

寒かった北国にもようやく春が訪れて参りました。さあこれから本格的なスポーツのシーズンです。日本各地の支部の皆さんも、いろいろと意欲的なプログラムを組んでいることと思いますので、その一助として今月は少しMIAのスポーツについて筆をとってみました。

MIAスポーツに参加する資格

MIAの会員及び求道者からなるチームへ参加する資格を得る為には、まず教会の道徳的標準（知恵の言葉や純潔、規則正しい勤勉な日常生活）を自ら実践し、更に神権会、聖餐式、其の他の諸集会に積極的に出席しなければならない。MIA主催の下に行われるスポーツの試合などでよく目新しいお友だちを見受ける時があるが、その人が、只スポーツの勝利の目的だけの為に参加したのならば好ましいことではない。特に他の支部との試合や多人数を要するスポーツなどでは、この点に充分な配慮が望まれる。MIAの会員の少ない支部では、この資格を充分に満足する会員がそう沢山いないので、スポーツのプログラムを作成する上に大きな支障とはなると思いますが、「量より質」と云うことを常に念頭に入れておいて下さい。

MIAスポーツに適当な種目

アメリカにおいては、バスケットボール、バレーボール、ソフトボール、ゴルフ、フォース・シュー（U字形の輪を遠くから投げて棒に引掛ける遊び）等が行われており、また年令的にも分けられている。本伝道部においては、先に述べた種目のうちで、前三種目の他に軟式野球、ピンポン、バトミントンもよい。場所が許せばテニス、水泳も結構である秋になれば運動会形式で陸上競技をするのも面白いでしょう。健全なファイトを燃やさせるスポーツなら、若い人達に大きな利益を与えるが、方法を誤まると単なる喧嘩の場になってしまうから指導者は始める前に充分な打ち合わせをして欲しい。

ＭＩＡスポーツの組織

皆さんの支部にはスポーツ委員がおりますか。もし、いまだ選んでいないようでしたら早速決めて下さい。この委員には前述の資格に適合する人であることは云う迄もない。人数は男女各一名以上が望ましい。彼らによって作られた計画原案はＹＭ、ＹＷ両ＭＩＡ会長の監督の下に具体化すべきである。

また、他の支部のスポーツ委員とお互いに連絡し合って、出来るだけ沢山の人達がスポーツを楽しめる様にプログラムを交換し合い、予算と時間が許すならば交換試合をするのも望ましいことである。現在では、全国的な組織は作られていないが、近い将来設立されれば、ＭＩＡのスポーツは更に隆盛となるであろう。

（伝道部ＹＭＭＩＡ会長　佐藤襄二）

四月二十六日「歌祭り」

この頃は桜の開花にともなって、人々の心に歌をよぶ季節です。ＭＩＡの「歌祭り」も良く準備して楽しい催に致しましょう。

まずＭＩＡ手引き（付録）の三十五頁を開き、それを読んでみると、今年の歌祭りは、私たちの国に昔からある民謡や子守歌をたずねることや、その背景に流れている諸々のことを知ることが提案されています。各国各地方に色々異った民謡があり、子守歌があることでしょう。また、もう少し範囲を拡げるならば、日本古来の謡曲や琴、三味線、雅楽等も私たちの興味あるもので、その歴史の流れ等も知りたいものです。このプログラムを作成するにあたって充分な時間と人々の協力が

必要です。まず音楽のクラスにおいてその責任者を選出し、プログラムに取り入れる曲目を撰択し、それを演奏する人、歌う人等に割り当て協力を要請しましょう。また、図書館や昔物語り等を知っている方を訪問し、選曲したものの歴史的背景や、語り伝えられてる興話、作詩、作曲者について等を知らべて下さる人々も選びましょう。「歌祭り」の当夜迄に何回か集って、各自割り当てられたものについての進行状態について打合せ、一人の人に無理な負担がかかっていないかよく知らべて、皆でプログラムを作成しましょう。

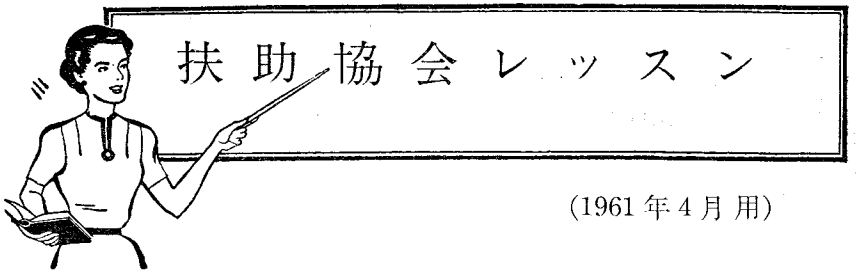
（打合せはＭＩＡのクラスにおいて行ってもよいし、また、割り当ては音楽クラス以外の人であってもよい）

私たちの両親に招待状を出して、共に楽しい一夜を過しましょう。支部の中の年輩の方々の参助出演もお願いすると、私たちの知らなかった古い歌にも接する機会が出来ることでしょう。また、民謡等は踊りも少しそえると聞くだけの楽しみではなく、見る面白さも加味されることでしょう。室内装飾も古典的なものにすると効果的だと思います。

また、此の夜の総括したプログラムの責任者は、ＭＩＡ音楽の指導者になります。開会行事が終ってこのプログラムに入る時に、音楽の指導者に司会をしていただいても良いし、また、音楽のクラスの中から選んだ司会者であっても良いと思います。

（伝道部ＹＷＭＩＡ会長　田中栄子）

◇　◇　◇　◇　◇



扶助協会レッスン

(1961年4月用)

神学

「教義と聖約」

第三十一課「キリストの再臨」

目的　キリストの再臨に関聯するいろいろな出来事を学ぶこと。

「キリストの再臨に先立って起る出来事」

このレッスンで私たちは、今私たちの生きている時代について主がいろいろ啓示をなさったこと、および救い主がこの地球へもう一度帰って来て、お現われになる時の間近かに起ると予言されている種々の出来事を、もっとよく知るようにならなければならないことに注意を向けましょう。

「教義と聖約」第四十三章

このレッスンの第十八課には、大切な原則を説き明すために「教義と聖約」第四十三章の第一節から第七節までが載っています。その原則というのは、末日聖徒イエス・キリスト教会のために啓示を受ける権能を、按手聖任と召しによって持っている人は、この地球上に一時に一人しかないという原則であります。この権能を行使するに当って、教会の大管長はそのメッセージを教会員である聖徒たちにあてて出すだけでなく、必要ならば世の人々にあてても出すのであります。

予言者ジョセフ・スミスは「この福音の神権時代」が開始されるとき主の代弁者でありました(「教義と聖約」二十一〇四—六参照)。

主はその御言葉が、すべての人々に伝えられる「警しめの声」として全世界に宣べ伝えられるべきであると、主の聖典「教義と聖約」のはしがきに言っておいでになります。

主の僕たちは、この主の御言葉を全世界に宣言するように命ぜられましたから、やがてすべての人々はその言葉を聞くでありましょう(「教義と聖約」一〇一—七)。

福音を宣べ伝える準備として、主は長老たちや教会員に対して適切な忠告をなさいました。これらの人々は、

「汝ら相集る時は、汝らの行いてわが教会を導く方法、わが与えたる律法と誡命との要点を実行すべき方法を知らんために互いに教え導くべし」(「教義と聖約」四十三〇八)と教えられました。

福音の理解から発する教訓の言葉を与えることによって、長老たちは「受け入れたるところによりて聖くせられ、またわが前に全く聖き行為を為すよう義務を負わせられん」という御言葉を受けました(「教義と聖約」四十三〇九)。

いろいろの集りに於て教えの通りに行い、主の賜うた誡命を日々の生活で実行する結果は、「汝らに与えられたる王国(すなわち教会)にいよいよ栄えあらん」ことは必然でありますが、一方これらのことをおろそかにするときは、忠実な者たちが受ける権利のあった数々の祝福を失う結果になるでありましょう(四十三〇十参照)。

「ジョセフ・スミスの予言」

聖徒たちは主の予言者を支持するよう常に訓戒を与えられています。というのは、それによって安全が得られるからであります。さて、私たちは予言者ジョセフ・スミスを通して賜わった数々の啓示をどれほど精密に信奉していますか。たとえば、私たちは末日聖徒として、予言者が私たちに告げたことを支持しているでしょうか。

次にジョセフ・スミスの予言の

中から一つ二つ挙げてみましょう

「私は、『人の子』の来りたもう数々のしるしがすでに始まっていることを啓示によって告げる。疫病は相ついで世を荒らすにちがいない。間もなく戦争と流血がある。月が血と変る。私はこれらの事のあることを証言し、また『人の子』の来りたもうは近きにあり、今や門口にせまっていることを証言する。もしわれらが全身全霊をあげて『人の子』の来りたもうこと待ち設けていないならば、また死後に於ても待ち設けていないならば、われらは、岩よわが身に落ちてこいと呼び求めている者たちの仲間になるにちがいない」

「『人の子』の来りたもうは、この時のために、すでに述べられた審判が下るまでは決して起るはずがない。しかし、いろいろな審判はすでに始まっているのだ」。

この予言の中で言ってある「時」は、黙示者ヨハネが「神の審判の時」(黙示録十四〇七)と予言をしたその「時」であります。

「わが語りし如く教えよ」

主は、この神権時代に主の伝えたもう言葉を勉強して、主の再臨に備えるため世の人々に伝えようとする長老たちにひきつづき教えようとなさったので、彼らは人の子らを教えるために遣わされるのであって、人から教わるために遣わされるのではないとお諭しになりました。主はその前に、将来起るはずのいろいろな事、すなわち「地上に下る審判」(「教義と聖約」八十八〇七十九)について知識を与え、「みたま」の力によって教えよとお命じになりました。長老たちの受けた指令は「真理を与える者、すなわち全智なる神」から下されたのでありますから、汝ら身を聖くせよ「然らば能力を授けられ、かくて誠にわが語りし如く教うるを得ん」(教義と聖約」四十三〇十五—十六)と命を受けたのであります。

しかし、主は何と語りたもうたでありましょうか。長老たちが携えて行く何ものをお与えになりましたでしょうか(四十三〇十七—十八参照)。

主は御言葉をつずけて、その呼び声に答える者たちが悔い改めをするように、万国の民の中で行われるべき宣教師の働きが必要であることを強調なさいました。宣教師たちは、その責任をおろそかにする仲間とならないため、奉仕をせよとの呼び声に応じて立てと言われました(「教義と聖約」四十三〇十九—廿)。まことにこの神権時代は、主の僕たちがこの地上に住む人々に呼び集めを為すべき最後の時であります(「教義と聖約」四十三〇二十八)。私たちがこの啓示を読むとき、主の民は、主の大いなる日のために備えをせねばならぬことが解ってまいります。(「教義と聖約」四十三〇二十—二十二)。

「主の大いなる日が近づいている」

「教義と聖約の註解」に載っている第十七節の説明の第一段のところに、主の大いなる日とは、主が統治をするためこの地上に来りたもう日であると言ってあります。ジョセフ・スミスは多くの啓示の中で、主の大いなる日が近づいているということが、この神権時代の人々に告げる主の御言葉であるということを知らされました。

地球上に住む人々が、悔い改めよという宣教師の呼び声に応じないときには、主は啓示に示してあるように「雷地の極より声を挙げ生きとし生ける者の耳に向いて『悔い改めよ、主の大いなる日に備えよ』と叫ぶ日来らば汝ら果して何と言うべきか」という主御自身の問に答えなさるにちがいありません。

「主の告げたもう御言葉は文字通りの意味か。または比喩的であるか」

主の告げたもう御言葉は文字通りに受けとらなければなりません。

「もしもこの地球上に住む人々が、いつまでも福音をしりぞけて邪悪の杯を満たすならば、大きな災いと破壊とが彼らを待っていると予言されている。この罰は「神の怒り限りなく悪しき人々の上に注がる」(「教義と聖約」一〇九)ときに下るにちがいない。この罰はイスラエルの長老たちがその伝える言葉をことごとく宣言し終ってから下るにちがいない。その時、怒りと憤りの証詞、地震と雷と電と暴風雨とその境を越えて押し寄せ来るわだつみの浪の声の証詞があるにちがいない」(「教義と聖約」八十八〇八十八—九十一参照)。

「主はその声を挙げたもう」

主の審判が警しめとして現われるとき、主は何とお言いになるで

しょうか。

「もしもわれわれがこの予言（「教義と聖約」四十二〇二十三）を正しく理解するならば、それは雷と電と世界中の戦の警告があってから、神は再び人の子たちに言葉をかけたもうということである。言葉を換えて言うと、福音の声が響くにちがいない、主はその僕たちを通じて、数々の災いがふりかかったわけは、人々をして悔改めさせ、かくして救いにあずからせるためであったと説き明したもうにちがいない」（「教義と聖約の註解」二四七頁参照）。

「教義と聖約」第四十五章―今までの復習と前書き

先月のレッスンの目的は、主イエスが先見なさって、「時の絶頂」すなわち主が地上に於て導きと恵みを施しておいでになったときにその御弟子たちに語って聞かせなさった「時のしるし」を見抜く力を私たちにもたせることであり、また今の神権時代に起るいろいろな出来事を述べることでありました（「教義と聖約」四十五〇一―四十二参照）。

第四十五章の十五節から二十四節まで、イエスはその弟子たちに向って、弟子たちが生きている「神権時代」もしくは彼らの代に起るはずの出来事をいろいろ話してお聞かせになり、また二十五節から三十五節にわたって、最後の「福音の神権時代」に「異邦人の時」がほとんど満ち終ろうとしていることを示すいくつかの「しるし」を話してお聞かせになりました。

末日聖徒はこれらの「時のしるし」を心して待ち望まねばならぬでしょうか。次に示す主の御言葉を聞いて下さい。

「およそわれを畏るる者は、来るべき主の大いなる日、すなわち人の子の来る徴を待ち望みつつあらん」（「教義と聖約」四十五〇三十九）と。

この予言は、主の来りたもう日が近づくにつれて、主の再臨と「福千年」の教義を深く心に銘ずる信仰深い人々もあるが、一方に於て一般世人はこのような聖書の教えに心を留めないということを暗示しているようであります。この信仰深い人々は、

「種々の徴と驚異とを見ん。これらの徴は仰げば天にあり、伏して見れば地に示さるべければなり」「人々は、血と火と烟霧とを見ん」（「教義と聖約」四十五〇四十―四十一）と誌してあります。

「人の子のしるし」

主の再臨に先立って現われるこれらのしるしの中に一つのしるしがあります。それは、主が地上に於て導きと恵みを施しておいでになった時に、主の弟子たちに話してお聞かせになった「しるし」であり、また「この神権時代」に再び「一つの大いなる徴天に現われすべての人々共にこれを見ん」（「教義と聖約」八十八〇九十三）とお言いになった「しるし」であります。この「しるし」は何でありましょうか。すべての人々がこの「しるし」を見ますから、主の再臨が近いということを示す一つの「しるし」として世の人々がこれを認めるでしょうか。またはこれとは別の自然現象として説明されるでありましょうか。

一般に、主の再臨が起る近くには、邪悪と不信仰とが地上を支配して居りますから、世の人々はこの「しるし」の本当の意味を受け入れないにちがいありません。しかしながら、これらの「しるし」を待ち望み、また、このような事に現われた導きを与えられるようキリストの指導を待ち望んでいる忠実な末日聖徒たちの中には、その「しるし」が何であって、またその意味が何であるかを知っている人々があります。

「ユダは元に帰り、エルサレムは再建され、神殿も再建されるにちがいない。また水が神殿の下から湧き出し、死海の水は癒されるにちがいない。市の城壁、神殿等を再建するために暫らくの時を要するにちがいないが、これらの事はすべて『人の子』が再臨したもう以前に完成されるにちがいない。世界には戦と戦の噂があり、仰げば天に諸々の「しるし」があり、伏して見れば地にも諸々の「しるし」がある。太陽は暗くなり、月は血と変り、方々に地震が起り、わだつみの浪はその境を越えて押しよせてくる。これらにつずいて、空に『人の子』の大いなる「しるし」が現われるにちがいない。しかし、世の人々は何をするだろうか。彼らはそれを星である、「ほうき星」などであると言う。しかし『人の子』は『人の子』の来りたもう「しるし」の通り来りたもうにちがいない。それは暁の光が東からさし出でて西の方まで輝やきわたる如くである」（「教

会歴史」第五巻、三三七頁参照）

「**空に輝やく虹の橋**」（一つだけでなく多くのしるしがある）

主の再臨の近いことを知らせるのは、ただ一つの「しるし」や出来事ではないということを心に留めておくのはよいことであります。太陽や月や星に「しるし」があらわれるのも、数多い「しるし」の中の一つであります（「教義と聖約」四十五〇四十二参照）。しかし、ここに予言者ジョセフ・スミスが言った一つの「しるし」がありますが、それは自然現象の一つがなくなるというので非常に重要なものであります。すなわち、予言者は「私は、主の来りたもうことについて主に伺ったことがある。そして私が主に伺っている間に、主は一つの『しるし』を与えて私に仰せになった。『ノアの時代に、われは大空に虹を置き、いつの年にてもこの虹の見ゆる時主は来らざるべし、との「しるし」とし証拠とせり。その年のうちには種まく時と刈り入れの時なかるべからず。されど、いつにても虹の取り去られたるを知るとき、それは国民のうちに飢饉と疫病と大いなる悩みとありて、メシヤの来ることの遠からざる「しるし」と知るべし』と」。（「教会歴史」第六巻、二五四頁）。

「最初の現われ—聖徒らに現われたもう」

再臨の一部として、主は最初に聖徒らにお現われになります。旧約聖書の予言者は、主がたちまちその宮に来りたもう日のことを語ったとき、このような現われについて言いました。その日については「その来る日には、だれが耐え得よう。そのあらわれる時にはだれが立ち得よう。彼は金を吹きわける火のようであり、布さらしの灰汁のようである」（マラキ書三〇二）と「たちまち来りたもう」ことにふさわしい問がしてあります。モロナイは、千八百二十三年にジョセフ・スミスを訪れたときこのマラキ書の三章の一部分を引いて語りました（「高価なる真珠」ジョセフ・スミスの著二〇三十六参照）。

再臨の一部として、主が最初に聖徒らにお現われになることは、聖徒らから世の人々に告げ知らされた場会を除いて、一般には知れていないかも知れません。この予言の一部が実現した例として、千八百三十六年に救い主がカートランドの神殿に姿を現わしたもうたという事実があります。この予言の完全な実現が将来ミズーリ州ジャクソン郡に建つはずの新エルサレムの神殿に関係があるということは、レビの子孫が義しきに適って主に捧げ物をするというので解ります（マラキ書三〇三「教義と聖約」八十四〇二十一—三十四、「予言者ジョセフ・スミスの教え」一七一—一七三頁参照）。ブリガム・ヤング大管長は、かって次のように言われました。

「イエスが再び地上に姿を現わしたもうときに、イエスを迎え、イエスと相対して見、イエスと言葉を交える準備のできているのは、この神の国である教会の中でも少数である。しかし、イエスはその神殿に来りたもうにちがいない」と。

千八百九十八年四月の総大会が開かれた時に、ウィルフォード・ウッドラフ大管長は、予言者ジョセフ・スミスに始めて会ったことと、千八百三十三年に神権者の会合のあったことを話しましたが、その神権者の会合で予言者は、聖徒らが後年ロッキー山中に植民するにちがいないということを予言したのであります。

「そこに出席していた兄弟たちの話が終ると、予言者は次のように言いました。『兄弟たちよ。私は今夜諸君の証詞を伺って大いに教えられ且つ知るところがあった。しかし、私は主の御前に於て諸君に次のように言いたい。すなわち、諸君はこの神の国である教会の将来について赤ん坊のように何も知らない。諸君はそれが解っていないのだ。今夜ここに出席しているのは僅かの神権者にすぎない、しかしこの教会は将来南北アメリカどころか世界中に満ち充ちるにちがいない。この教会はロッキー山中に満ち充ちるにちがいない。ロッキー山中に集合する末日聖徒の数は数百万に及び、彼らはレーマン人の間に教会を樹てる門戸を開くにちがいない。而してレーマン人は福音を受け入れ、彼らのエンダウメントと神の祝福とを受けるのである。わが教会の民はロッキー山中に入植して、いと高き神のためいくつも神殿を建てるにちがいない。彼らはその地に於て子孫を育て、ロッキー山中に住むところの末日聖徒は『人の子』の来りたもうまで生きて立つにちがいない。『人の子』は、ロッキー山中に在るうちに彼らのところ

に来りたもう』と。私がこれらのことを口にするは、私がこの目を以てその時代を見、またこれまで五十年間にわたってその予言の実現を見てきていることを、神と天使と人々の前に証詞したいからであります」（千八百九十八年、第六十八回総大会報告、五十七頁参照）。

聖徒の中には、予言者ジョセフ・スミスが語ったアダム・オン・ダイ・アーマンの大会議へ指定によって出席する人たちがあります。その時アダムは「人の子が栄を以て来りたもう」に先立って、自己の「管理職」をキリストに引き渡します（「予言者ジョセフ・スミスの教え」一五七頁参照）。

「これとは別にユダヤ人に現われたもうこと」

ユダヤ人たちが聖地に集ったとき、前の現われとは別に、主の大いなる現われがあるにちがいありません。この現われがあるとき、多くの民はユダヤ人と戦をしているのでありますが、そのユダヤ人は千九百四十八年以来パレスチナに自己の政府を置き、今ぞくぞくとそこへ集って居ります。エルサレムがきびしく囲まれ、市の一部が取られるとき（ゼカリヤ書十四〇一―二）、「最後の日のためにユダヤの国民に現われる」二人の予言者、すなわち二人の証人が殺され、その死体は大通りに三日半の間さらされます。そして、三日半の後いのちが再び彼らに入り、彼らは天へ上ります。この時大地震が起ってオリヴの山は二つに裂け地が大いに震うにちがいありません。（黙示録十一〇一―十三、「教義と聖約」七十七〇十五）。また、主はその時出てきて、いくさの日に自ら戦われる時のように、それらの国人と戦をなさいます（ゼカリヤ書十四〇三―九参照）。

「教義と聖約」第四十五章には次のように誌してあります。

「それよりユダヤ人はわれを仰ぎ見て問わん『汝の手と足にある傷は何ぞや』と。その時、彼らはわれの主なることを知らん。そはわれ彼らに向いて『この傷は、わが友の家にありて得たる傷なり。われは挙げられたる者なり。十字架につけられたるイエスなり。われは神の子なり』と言えばなり。彼らこれを聞きてその為したる悪事の故に泣き悲しみ、またそれより己れらの王を迫害したる故に嘆かん」（ゼカリヤ書十三〇六、十二〇八―十四、十三〇一も参照のこと）。

そして、このようにしてユダは彼らを救いたもう救い主イエス・キリストを受け入れて贖われるのであります。どの民でも、救いに与るためには、罪を赦すためのバプテスマの水に入り、聖霊を授けられなければなりません。

「第三の現われ―権能を帯びて世の人に現われたもう」

それからつずいて、イエス・キリストが輝やく栄光のうちに再臨なさり、あらゆる敵を脚下に征服して、全地の王とおなりになることになって居ります。これこそ義人たちがこれまで祈り求めている再臨であり、かくして悪人たちは地の上から除かれるのであります。キリストが権能を帯びて再臨なさる有様は、今の時代に与えられた啓示の中に「悪しき者と正しき者とは全く分たれ」、悪しき者は火によって滅ぼされると描写されています（「教義と聖約」六十三〇五十四、百一〇二十三―二十四、百三十三〇六十三―六十四）。

また「教義と聖約」第四十五章には

「そは主の現わるるや、主は彼らにとりて怖るべきものなればなり。かくて彼らは恐怖にとらわれ、遠く離れて立ちおののきふるえん。またすべての国民は、主の恐ろしさと主の威力とによりて怖れん。誠に然り、アーメン」とあって、多くの地上の民がおそれおののくことが明らかになっております。

「新エルサレム」

主の審判が悪人たちの上に下る最後の日に於けるシオンの中心地の様は「教義と聖約」第四十五章六十六―七十一節に最もよく描写されています。

主は、最後の日にパレスチナとアメリカに一つずつ、すなわち二つの集合地があると、昔も今も仰せになっています（ミカ書四〇一二、「教義と聖約」百三十三〇十二―十三）。

「その他の出来事」

これまで示したように、救い主が再臨なさる時、万人の復活が起り、異教の民が贖われ、キリストが「千年間」の統治をなさるが、その後暫しの間サタンが釈き放たれます（「教義と聖約」四十五〇五十四、四十三〇二十九―三十五）。

「備えを為せ」

イエス・キリストは、肉体をもって導きと恵みを施しておいでになった時、信者たちが最後の日のために備えをすることについてお話しになりました。五人の乙女は花むこを迎えるために立派な用意をしていたが、もう五人の乙女は用意をしていなかったために、花むこの祝宴に入ることをことわられたという、十人の乙女の譬え話をなさってから「だから、目をさましていなさい。その日その時があなたがたにはわからないからである」と言って結びとなさいました。

この譬え話は末日聖徒にも当てはまるでしょうか。明らかにそうであります。「教義と聖約」第四十五章の五十六節から五十九節までにある主の御言葉、予言者ジョセフ・スミスに賜わった主の御言葉を読んで下さい。

この地球上で、ここに誌してあることを最もよく満足させるものは末日聖徒を措いてほかにありません。それは末日聖徒が「真理を受け入れ、聖霊の導きに従い、騙されなかった」からであります（「教義と聖約」四十五〇五十七）。

討論のための質問

一、末日聖徒イエス・キリスト教会のもっている最も大きな責任のうち、どの一つが世の人々に対する責任でありますか。

二、主は聖徒たちに命じて、今日予言者ジョセフ・スミスを支持せよとお言いになりました。義務があるとするならば、当教会の会員は現代の予言者を支持するに当ってどのような義務がありますか。

三、最後の日のために言われた審判は、文字通りの審判であって比喩的の審判でないという真理を、どのような証拠が支持していますか。

四、キリストの再臨を前にして、これから数々の大事件が起ることを考えると、末日聖徒は教会の指導者の言に従うことが、どのように必要であると思いますか。

五、キリストの再臨について次の三つの面を論じなさい。(一)聖徒たちへの現われ。(二)ユダヤ人らへの現われ。(三)世の人々への現われ。

六、十人の乙女の譬話と、末日聖徒に与えるその訓えとを論じなさい。

家庭訪問教師のメッセージ

「教義と聖約」に基づく生活の実践

メッセージ第三十一「汝ら隣人の悪口を言いまたこれに害を与うることなかれ」（「教義と聖約」四十二〇二十七）

目的　他の人の人格を害したり、またはひそかに傷つけるかも知れぬ無益な言葉や悪口を口に出さぬよう、絶えず身を慎しまなくてはならない。

この賢明な勧告は、教会の律法を包含する啓示としてジョセフ・スミスが述べた「教義と聖約」第四十二章から抜粋したものであります。隣人の悪口を言うのを避けまた、必らず隣人に害を与えないようにすることは、聡明な行いの基本となる律法であります。もしも親しく他人と交わるに当って、愛と友情と理解と善意とを広く行き亘らせたいと願うなら、この律法を履み行わなくてはなりません。すぐに後からうそだと解るような中傷的のうわさ話を、方々話して歩いてていた或る男の話があります。この男は良心に責められて、一人の友人のところへ行って忠告を求め、今まで言って歩いていた悪口を償うためには、何か良策がないものかと尋ねました。するとその友人は、その男に言いました。「君は、一つの袋に鳥の羽毛を一ぱい詰め、その中から一つかみづつ羽毛をとり出して、この村にある家の一軒一軒の戸口に置いて来たまえ」と。その男は友人の言った通りをしてから、友人のところへ帰って来て、それからどうしたらよいかを尋ねました。友人は「では、もう一度その袋をもって一軒一軒訪問し、君が先刻置いてきた鳥の羽毛をそっくり袋に入れて来たまえ」と答えました。するとその男はかぶりを振って「それはできない。風が鳥の羽毛を道ばたへ吹きとばしてしまっているから」と言いました。

この飛び散ってしまった鳥の羽毛のように、一度口から出したうわさ話や不親切な言葉の埋め合わせをすることは、ほとんど不可能であります。たとえどのように努

力をしてその言葉を取り返そうとしても、また心から悔改めさえしても、すでに加えた害を元通りにすることはおそらく不可能であります。これはどのような中傷的な言葉、或いは真相を正しく伝えない言葉に就いて本当であります。

私たちの一人一人は、うわさ話を広がらせるために容易にまた軽々しく口から出すことのできる言葉を持って居ります。それは「……だそうなんですよ」という言葉であります。これは全く罪のない言葉であって、またことさら人に害を与えるつもりで口に出すことはほとんどありませんけれども、他の人の人格を正しく表わしていない、または他の人の人格を傷つけるかも知れないような話をふと口に出した時「……だそうなんですよ」という言葉がつくと、その話は完全に元通りにすることが不可能かも知れぬような害を人に与えることができます。

昔から今に至るまで、主は他人の悪口を言いたがるという人間の性質を心にかけておいでになります。主の予言者ソロモンを通して主は、その憎みたもう七つのうち五つを私たちに思い起させたもうが、それはすなわち、私たちの隣人の悪口を言い、また害を与える行いに関聯のあるものであります。その五つというのは、

「偽りを言う舌……悪しき計ごとを廻らす心、すみやかに悪に走る足、偽りをのべる証人、また兄弟のうちに争いを起す人」がそれであります（しん言六〇十七―十九）。

イエスはまた次のように言ってこの警しめを強調しておいでになります。

「審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならないであろう。あなたは自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪ありとされるからである」（マタ伝十二〇三十六―三十七）。

さらに、この点について私たち個人の責任をはっきりとさせる鍵を与えて、イエスは

「自分の目にある梁を見ないで、どうして兄弟に向って、兄弟よ、あなたの目にある塵をとらせて下さいと言えようか」（ルカ伝六〇四十二）と言っておいでになります。また、末日聖徒讃美歌集第百九十六には、

「人のあやまちを責むと思わばまず心に問え、過またずやと。まず心に問え、過またずやと」

と言ってあります。

大へん人から愛された或る婦人に、或る時「どうしてあなたのようにたくさんの良い友だちを引きつけていつも持っていることができますか」と聞いたら、その婦人は「私はいつでも他の人たちの悪口を口に出さないことにしているのです。誰かがあやまちをするのを目にすると、私はもしも自分があの人と同じ状態に置かれたら、もっとひどい過失を犯しただろうと自分自身に言い聞かせるようにしているのです」と答えました。予言者ジョセフ●ミスは扶助協会に話をしたとき、

「他人の美徳を見る目に制限をつけるな。……お互いに対して心を大きく持たなければいけない。……堅忍自重、人間の欠点とあやまちを忍ばなくていならない。……あなたたちの言葉に親切と慈悲仁愛の王冠をつけよ」と言いました。

「教義と聖約」に載っているこの誡命に心しようではありませんか。お互いのことを悪く言うよりも、むしろしばしば親切な言葉をかけようではありませんか。「親切な言葉は、心の妙なる調べ」であるからであります。

社会科学

「核時代に於ける霊的生活」

第十三課　家庭に於ける宗教的価値の成長

目的　家庭と家族というわくの中で、宗教的の価値が成長発達し得るいろいろな過程を探ってみる。

緒論

ここにも一人、あそこにも一人なおまた一人、たくさんの子供がいる。彼らは皆生物学上の遺伝から見れば何千年という歴史を持ち、社会の遺産という点から見れば驚ろくほど新しい。私たちはこの子供、あの子供、さてはすべての子供をどのように取扱ったらよいだろうか。私たちは、その子供が自分に指図をする人々のほかに何の興味も持たず、何の必要も感じないと仮定してよいだろうか。それとも、私たちはその子供のもっている独特なところをよく考えてやり、自己の権利をもっている人間としてながめ、彼の必要とするところ、希望、恐怖、心配、計画などを聞いてやるために、その言うところに耳を傾けたらよいだ

ろうか。彼が努力して私たちの置いた目標を越したときに本当の意味の賞め方をせず、彼が言いつけにそむき、言うことを耳に入れずまたは私たちの差出す賞に手の届かないときに罰を与えたらよいだろうか。それとも、私たちは彼の生長するに任せ、時につまずくことがあっても独りでまた立上るように任せて、導きを与えることによって彼が家族の中で、同輩の中で、またそのほか大人との交わりに於て、もっと成熟し「おとな」になるように助けを与えたらよいだろうか。

もしその子供が幼いならば、彼は今人生の出発点に立っている。彼は今、あらゆる人が不安を感じ人生がつまらなく見え、恐怖と心配とが空気を貫いているように見える複雑且つ不可解な文明の真唯中に居る。

この子供は、自分の内部にもっているあらゆる力の源を挙げて、自分が住んでいる世界の挑戦に対抗することのできる、内部的の力によって強くされる必要がある。この子供は、自分自身と他人との関係をよく知っている必要がある。また、もしも宗教的に成熟しようとするならば、極端なまでに感情の教育が必要である。家族の人々から、感情のビタミンとも言うべき愛情と忍耐深い理解とを与えられ、その上に彼のできないことをやらせようとせず、また健全な人になるために必要な個性も奪わず、彼独特の個性を認めてもらえる子供は真に幸福である。

私たちは、子供の肉体が健全に成長するために、正しい食物と正しい経験と正しい保護とを与えようとするように、子供の精神を成長し発達させるようないろいろな経験を与え、宗教的の値値を増大するような励げましも与えなくてはならない。

「子供の人格をつくるものとしての家庭」

家庭の歴史は人類の歴史ほど古く、家族の一人一人の個性と人格をつくる泉のもとである。現在の家庭の状態および明日の家庭の状態は、現在私たちにとって人生がどのようなものであるか、また将来私たちの子孫にとって人生がどのようなものであるかを何よりもよく決定する。また、家庭はいろいろな働きをもっているが、中でも、家族の一人一人の内部にいろいろな価値を発展させることについて最も大きな影響を及ぼす。家庭は私たちをつくるから大切である。家庭は、現在私たちがどのような人間であるか、また明日はどのような人間になるかをきめる何よりも大きな力をもっている。家庭のほかにいろいろな要素も働いているが、家庭は過去、現在、将来にわたって、人々の個性と人格を形づくる上に最も力強い影響を及ぼすものである。

子供は、倫理的の行いをするに当って、最も早いころのまた最も根本的の教訓を、家庭という環境の中で覚える。子供たちは、たえず意味や目的や標準や価値を探し求めている。子供たちは、決定しさえすれば行動する。また決定する基礎さえあれば決定をすることができる。従って、子供たちは模範を見つけ、考えを発展させ、価値を成長させなければならない。出発点から始めて、彼らは自分の人生の中で経験をするいろいろなことに基いて、自分自身の考えをつくらなくてはならない。ところで、これらの経験が系統的に計画されている経験であるか、それとも出たらめに起る経験であるかによって、そこに大きな相違ができてくる。考え深い両親たちは、以上の考えが健全にして望ましいものであり、且つまたその価値が確実であることを知るために、多くのことを実行することができる。

「価値を増大するための家庭の責任」

家庭で子供たちに宗教的の考えを教えるとき、両親の負うべき責任は、明らかに、彼らの心を閉ぢることでなくて彼らの心を開くことである。私たちの両親としての責任は、子供たちに、宗教について円熟した信仰と考えとを発展させることのできるような教えと経験とを与え、また子供たちの宗教上の決定を聡明に、且つ利用することのできる証拠に基づいてさせることである。

私たちは、道徳を説くことだけによって自分の考えを伝えようとする誤まちを度々犯す。私たちは子供たちに成功をする努力をせよとしきりに促がしているが、成功についてどのような考えを彼らの頭に画かせているだろうか。ロバート・ルイス・スティヴンソンは、私たちが成功と言っている考えの中に入れてもよい、いろいろな価値を次のように言っている。

「裕福に暮し、しばしば大笑し多くのものを愛した人は成功である。また、聡明な人々に尊敬され

子供たちから愛された人も、彼独特の地位を占めて自分の仕事を完成した人も、ひなげしを改良しようと、完全な詩を作ろうと、さては人を救おうと、生れた時よりも善い世界にして世を去る人も、地球の美しさを感謝しないことがなかった人も、その美しさを言い表わさないことのなかった人も、他人の中にある最も善いものを探し求め、自分の持っている最も善いものを与えた人も、同じように成功である」。

アルバート・シュバイツァー博士は「今日の子供たちにとって最も重要なことについてどうお考えになりますか」ときかれたとき、ミシガン州デトロイト、メリル・パーマー校のケイス・オスボーン氏に手紙で次のように答えた。

「私たちが本当に人間となる偉大な経験というのは、存在と生命との奥義に心が満たされることであり、また私たち自身の生活の中に、他人の生活と苦しみと幸福へのあこがれと破滅の恐怖とを真実に感じとることであります。そして、この感情とあらゆる生あるものに親切であるということは、私たち自身と世の人々に対する最も自然な正しい態度であります。もはや現代の子供たちは、自分自身と自分と他の人々との関係とをよく考えてみるようになるべきであり、また生命に対する敬まいの念が、あらゆる善の根本となる原則であるということを見抜く力を身につけるべきであります。現代の子供たちは、彼らが教わっている何ものかとしてただ「善」を受けとるのでなくて、よく考えることによって「善」を自分自身の中に見出し、自分の人格の一部として生涯持っていなくてはなりません」。

私たちの多くがよく証詞をするのは、私たちの信仰が支えられているという感じは、家庭生活の中にある親密さと温かさとによってまたおそらく習いおぼえた祈りによって、最初に非常に力強く子供に起ってくるということである。少しでもその感じが起るとすれば、その根源は子供がよく知って居り愛している人々が実行しているのを見た信仰の性質に根ざしている。家庭にあっては、家族の者が一から十まで分け合っている家庭財産となっている、ほかでは見られない大切ないろいろな経験や興味や喜びを、往々無意識のうちに大事にもっているからである。これはそれ自身一つの宗教的経験であって、教会や説教や宗教上の儀式よりも往々強い力で人を動かすのである。

もしも私たちが、自分の子供たちの中に宗教的価値を実効のあるように発展させなくてはならないとすると、私たちは自分たち一人一人を理知的にも宗教的にも満足させるような信仰の種類と性質とを見つけなければならない。それは私たちにとって現実なものでなくてはならない。そうでなければ私たちは自分の子供たちの中に宗教的の価値を成長させることに失敗するにちがいない。子供たちはなかなか機敏でありよく気がついて、見せかけだけのことでは決してだまされない。私たちは強い信仰、生活に根ざした真理、および私たち自身にとって充分意義のある価値、すなわち私たちの人格を構成している価値、私たちの行いにあらわれている価値を発展させなければならない。その時、私たちは子供たちにとって大切であると思ういろいろな価値を子供たちが成長させる助けを与えるに当って、成功を収める見込みが一層あるにちがいない。私たちは子供たちにいろいろな価値をおしつけようとしてはならない。かえって、増大と発展とを促がすようなふんい気をつくって与え、また子供たちも同じように行える模範を示してやらなくてはならない。

「たて板に水を流すようにイエス・キリストの倫理を暗誦して聞かせたところで、誰も本当の意義を伝えることはできない。本当の意義は徹底的に考え抜いて始めて解るものであり、ある程度自分で経験して始めて人の智と情とに訴えてこれを動かす堂々たる力があらわれるのである」。

「根本的な事項」

人が恐怖と憎悪と心配とを感ぜずに生きて行くためには、確信をもっているばかりでなく健全な人格ももっていなくてはならない。彼は自分の信念にもっとふさわしくなろうとしている間にも、自分を信じていなくてはならない。彼は自分の隣人を信じ、たえず隣人を信じつづけて、ついに自分も信じられるにふさわしい人にならなくてはならない。彼は家族を信じて、家族を強めなくてはならない彼は神を信じて、その信仰を行いに表わさなくてはならない。

そこで、何を為すべきかということは明瞭である。すなわち、善

を為すためにはまず善を知らなくてはならない。真理を語るにはまず真理を知らなくてはならない。個人の発達を促がすいろいろな価値を身につけるには、まず経験を通していろいろな価値を成長させなくてはならない。

私たちは、人を愛する能力を有ち、健全であって建設的な関係をつくる能力のある人々をつくり出すような経験を、子供の時代に与えることができるだろうか。私たちは、健全な個性と建設的な個人関係が促進されるように、子供たちをしつけることができるであろうか。あらゆる経験について、単純な現実主義で以て子供たちを「正しい道にかなうように」しつけること、および現代生活に適する身構えをさせるが、それにもかかわらず過去から伝えられた貴い財産のことは忘れないように子供たちに助けを与えることは、危険をはらんではいるが私たちを奮起させる企てである。

私たちは今、健全な人格をもちつずけて行くことに対して、一般に外からの影響がほとんど役に立たない時代に住んでいる。私たちはまた、自己を完成するためにことごとくの機会を利用することのできる人たちは、昔の人々よりも人生の目標に向って更に前進が可能である、進歩の早い時代に住んでいる。人生に対して宗教的の態度をもち、また人格をつくり上げるあらゆる活動的な要素を集積するならば、私たちが今気づいているどのような影響力よりも、自己の完成を実現するために一層力を与えるであろう。宗教とは、絶えず上って行く階段の上で、人間が内に持っている力を実際にあらわすことであり、またあらゆる人を利するようにその力をあらわすことである。

「広い視野と柔軟性とを発達させる」

科学的精神は、必要のある場合に進んで変えることを要求し、すでに試験ずみの可能性を越えて更に多くの可能性を見ることを要求する。科学の時代に生きて行くためには、革新をする能力と、新しい情勢に適応する能力と、急速に変化する活気のある世界の中で建設的な生き方をする能力がなくてはならない。自分と他人と自分の世界とを確く信じているという「しん」の強さを以て成長する若い人々は、人としての本当の力を増大し発展しつずけて行く力が自分たちにあることを信じている。大人も子供たちも、他人と自分たちとを感情的に結びつけて行く新しい方法を知らなくてはならない。父母としてまた教師として、私たちは子供たちに「愛の鞭」を振うことを知らなくてはならない。私たちは、他人から利用されようとしている、だまされる、もしくは害を受けようとしているという期待よりは、むしろ、他人を信頼することができるという期待をあらわさなくてはならない。大人も子供も同様に、もともと自分たちにとって良いことともともと他の人々にとって良いこととを結びつける方法を知らなくてはならない。倫理的生活の中でも物質科学に於けると充分同じくらい進歩が必要であるということを、子供や若い人たちに感じさせることは大切である。もちろん、普遍的な根本の真理は変らないけれども、おそらく私たちの生活の中でそれを実際に履み行う方法や、私たちの子供の中でそれを育て上げる方法は、勤勉な努力によって一層効果があるようになるであろう。人間がその社会生活を処理する能力に於て、物質科学の中で発展させた力よりもはるかに劣っている時には、通常幾多の悲劇が起っていることを歴史は記録している。今日はいずれの時よりも、他人を信頼すること、自分自分の能力を見つけること、自分自身の仕事に信念をもっていることを学んで知った人々の世代を育て上げることが何よりも肝心である。これらの人々は、確かに、恐れることなく、進んで学び、進んで他人の考えと生活様式とを尊敬して世の中に出て行くことができる。私たちは、その生活の中心に広い視野とすべての人を包んで持っている世代を持たなくてはならない。私たちはその生涯のうちに確かに起る多くの急激な変化に即応する充分な柔軟性を具えた人々の世代を持たなくてはならない。

「総括」

私たちはこれまで近代的の家庭はあてどもなくさまよっている、何となれば近代的の家庭の中には何らの価値もなく、また物質的なことや無意味な活動に没頭しているからである、という言葉を聞いている。私たちは、私たちの価値すなわち一人一人の個性のねうちを信ずること、また人間の尊さの大切なことを確信していることをなくしてはいけない。しかしながが

ら、私たちは、これらのことを現代の生活にあてはまるように言い直す必要がある。自己敗北であり反社会的である個人主義ではない個人性を認めてこれを育て上げ、子供たちや青年や大人に個人のねうちと威厳感を与えることは、家庭のもつ独特の任務である。

価値の発展と成長する価値とを理解することは、両親たちにとってどんな意味があるか。価値について説教だけをする両親は、自分は教えていると信じているかも知れないが、本当のところ何も教えてはいない。いろいろな価値は、私たちが子供たちと共に行うふるまいにいつもあらわれるという事実を認識しないならば、道徳的の価値と宗教的価値とについて教えることのできる方法を理解することは困難である。朝、父親が鏡の前に立つとき、彼はネクタイが曲っていはしないか、頭の毛を小ざっぱりとなでつけているかどうかなどを自問するよりは、むしろ「自分の本当の価値が現われているか」と自分に尋ねる方がよい。鏡の中には「もちろん」ありのままのねうちがあらわれている。

私たちのもっているいろいろな価値は、私たちの全人格がつくっているものと同じになる。私たちは、広い範囲に亘って変っているいろいろな価値の組み合さったものを現わしている。私たちは、複雑な世の中に住んでいる子供たちが、必らず出会うに違いない価値の衝突を解決する助けとなる実例と指示とを与えてやらなければならない。また私たちは、いついかなる時にもなくてはならないが、特にこの「核時代」に生きて行くために大切な信仰、すなわち安全の基を与えることのできる信仰、神を信ずるという最高の信仰を子供たちに教え込まなくてはならない。

ある幼い女の子は、いつもの通り寝る前のお祈りを自分と家族の人たちのために述べた後で、次のようにつけ加えて言った「神さまどうぞお体を大切にして下さいませ。あなたに万一のことがあると私たちはみんな亡びてしまいます」と。この話は、神を信ずる信仰が、安心の基となる価値になっていることをよく表わしている。

家庭は私たちを形づくり、私たちの価値が成長する土を与えるから大切である。私たちが現在どのような人であるか、また明日はどのような人になるかを決定する場合、家庭は何よりも強い力をあらわす。もしも私たちが、私たちと子供たちとを、自分たちの住んでいる世界の本性の探究について無関係で居るならば、悲惨なまでに子供たちをだめにしてしまう。なぜならば、二三の偉大な根本原理を確信していても、日常生活に於て年中起ってくるいろいろな問題を必らずしも解決しないが、今まで述べたような知的倫理的の目標と道徳的の価値とは、比較的小さないろいろな物事について、正しいそして何事があっても乗り切って行ける見通しをつけておくのに役立つからである。このように身支度をし、このように教えられているならば、私たちの息子や娘たちは恐れることなく将来に向って進んで行くにちがいない。

私たちは、子供たちが採って用いるいろいろな価値を偶然の機会がきめるに任せるだろうか、それとも私たちは一貫した最善を尽して、子供たちの身につけているいろいろの価値が立派な意義をもって、これから先、子供たちに力と満足を与えるように気をつけるであろうか。それには一つだけ答えをすることができる。すなわち私たちの子供は健全な価値を必要としている。

対論のための考え。

一、家庭が人格をつくるものであることを例に挙げて証明せよ。

二、家庭がいろいろな価値を生長させることのできる特殊な例をいくつも挙げよ。

三、どのような外からの影響が、健全な価値を発達させることをおびやかしているか。

四、いろいろな価値を生長させる一番有効ないくつかの方法は何々であるか。

ラスト　ワード

身体を大切にして
　健康をたもつは、
人間生活の道に
　欠くべからざるの要務なり
常に心身を快活にして、
　いやしくも健康を
害するの不養生を戒むべし。

（福沢諭吉）

支部所在地

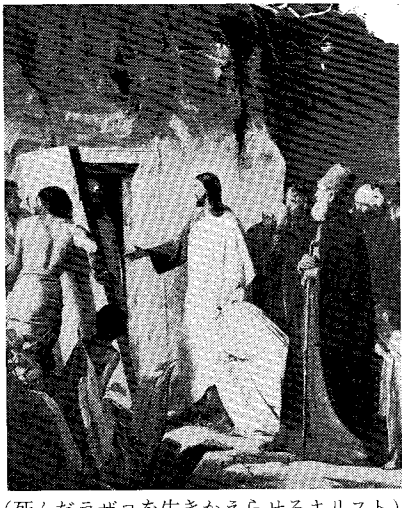
阿倍野　大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
旭川　旭川市八条五丁目
福岡　福岡市東薬院二ノ四〇
群馬　高崎市並榎町二七五
広島　広島市吉田町古江四〇〇ノ三
金沢　金沢市成瀬町一一ノ四　野田方
甲府　甲府市山田町六三
松本　松本市沢村町一六〇四
室蘭　室蘭市幸町八九
名古屋　名古屋市昭和区北山町三ノ四一
新潟　新潟市中大畑町五五七　金井方
電(二一一八六六一)
西ノ宮　兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
岡町　大阪府豊中市岡町北二ノ一八
岡山　岡山市弓野町六一
小樽　小樽市富岡町一ノ三五
三ノ宮　神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電(八二一六〇二)
札幌　札幌市北二条西二四丁目
仙台　仙台市光禅寺通り二八
電(五一〇八九七)
東京中央　東京都渋谷区八幡通一ノ三四
電(四〇八一三三〇七)
東京北　東京都豊島区椎名町四ノ二〇六八
電(九五一一六〇一四)
東京南　東京都大田区南千束町二四九
電(七八二一六一三二)
東京西　東京都武蔵野市吉祥寺三六八
電(二一七五八〇)
山形　山形市八日町五八〇
柳井　山口県柳井市今市三九一
横浜　横浜市港北区篠原町二九
電(四九一八七七二)
普天間　沖縄宜野湾村野嵩区三二八
那覇　沖縄那覇市松尾区一三九

編集後記

今月号の大管長メッセージにあるように、良書を選ぶことは本当に大切であります。不良な読み物が人間の性格に及ぼす悪い影響はまことに測り知れないほどであります。ところでこの「聖徒の道」は末日聖徒イエス・キリスト教会の機関誌でありまして、これまで教会幹部のメッセージの発表、教義の研究、教勢の報告、会員諸氏の証詞、このほか重要な記事を載せまして、これまで神の御国を押し進める一翼となって来ました。当教会には優れた定期刊行物が数多くあって、各々は末日聖徒が是非読まなくてはならない良書であります。「聖徒の道」もこれまで編集の業にたずさわった各位の努力によって漸次進歩の階段を登ってまいりましたが、皆様も御存じの通り先月号から一段の飛躍を致しました。頁数の増加に伴って定価を引上げることになりましたが、皆様の機関誌を更に立派なものにするために一段の御授助を願う次第であります。

（佐藤竜）

月刊「聖徒の道」第五巻第三号
一九六一年三月一日発行
実価　一カ年　六〇〇円
一部　五十円
編集兼発行人　ポール・C・アンドラス
発行所　東京都港区麻布広尾町十四
末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部



（死んだラザロを生きかえらせるキリスト）

聖徒の道
一九五八年三月十七日
第三種郵便物認可 第五巻第三号
振替口座東京七六二二六番
発行人 ポール・C・アンドラス
編集人 末日聖徒イエス・キリスト教会
発行所 北部極東伝道部
東京都港区麻布広尾町十四

図書案内

教義と聖約
高価なる真珠 上質革製合本……一一〇〇円
モルモン経
教義と聖約 合本……三〇〇円
高価なる真珠
モルモン経（新訳）……二〇〇円
信仰箇条の研究……三三〇円
モルモンとは……一〇〇円
完成への道……二〇〇円
初等協会教科書……一五〇円
総合聖句の手引……一五〇円
日本系図探究要覧……一〇〇円
古代アメリカの生活……一〇〇円
旧約聖書物語……一五〇円
家督権の祝福……一〇〇円
扶助協会手引……五〇円

日曜学校用

宗教と生活 II……一五〇円
よきおとづれ……一〇〇円
聖書物語……一五〇円
福音の実践……一五〇円
聖典中の指導者……一五〇円

MIA用

役員と指導書の手引……一〇〇円
モルモン経研究ガイド……一〇〇円
MIA手引（付録）……五〇円
演劇指導者基礎知識と脚本集……七五円
演説が上手になる法……一五〇円
社交ダンス必携……一六〇円
新しいフォークダンス……五〇円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）……四〇〇円
子等は歌う……一〇〇円
レクリエーション歌集……四〇〇円

……註文は各支部長へ……